

第2次嘉手納町 子どもの読書活動推進計画



令和7年3月
嘉手納町 教育委員会

<目次>

第1章 計画策定の概要	1
(1) 計画の背景・目的	1
(2) 計画の対象と期間	1
(3) 計画の性格	2
(4) 子どもの読書を取り巻く社会動向	3
第2章 第1次計画期間における現状と課題	5
第3章 基本理念	11
第4章 子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み	13
I. 家庭	13
II. 嘉手納町立図書館	14
III. 屋良地区体育館・図書室／嘉手納地区学習等共用施設・児童館 ／子育て支援センター等	16
IV. 保育所・幼稚園	17
V. 小・中学校	18
資料編	21
I. 子どもの読書活動推進計画 アンケート調査結果	21
II. 嘉手納町子どもの読書活動推進計画検討委員会設置要綱	47
III. 嘉手納町子どもの読書活動推進計画 策定実施体制	49
IV. 計画策定までの経緯	50
V. 子どもの読書活動の推進に関する法律	51

第1章 計画策定の概要

（１）計画の背景・目的

子ども達の読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高めるとともに、創造力を豊かなものにしていくものであり、そのための環境整備を社会全体で積極的に推進していくことが重要です。

国においては「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）に基づき、令和5～9年度を計画期間とする『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第5次）』を閣議決定（令和5年3月28日）しています。同計画では、推進のための基本的方針として、不読率の低減、多様な子ども達の読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進を掲げています。また、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（令和元年法律第49号）に基づき、令和2年7月には『視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画（読書バリアフリー計画）』を策定しています。加えて、子ども達のために読書環境の整備を進めるため、第6次『学校図書館図書整備等5か年計画』（令和4年度～令和8年度）を策定しています。

沖縄県においても、この間の国の動向を踏まえ、令和6年3月に『沖縄県子どもの読書活動推進計画～五感で拓く多様な読書～』（第五次推進計画）を策定しており、多様な子ども達の読書スタイルを考慮し、視覚や聴覚、感触を活かした五感を使った体験をも含んだ「多様な読書」を提唱し、自らの感性を最大限に活かせる読書スタイルを拓いていくことなどを目指しています。

嘉手納町では、令和2年3月に『嘉手納町子どもの読書活動推進計画（第1次）～読書でひろがれ未来～』を策定し、「成長段階に応じた読書活動の事業」、「家庭・地域・学校の協力・連携の強化」、「読書活動のための人材育成」、「読書活動の啓発・広報」の目標を掲げ、各種の取り組みを推進してきました。

第1次計画が令和6年度に満了することから、国や県の方向性、嘉手納町における上位計画との整合性を図りつつ、これまでの取り組みや社会状況の変化、町民ニーズを踏まえ、新たな計画となる『第2次嘉手納町子どもの読書活動推進計画』を策定するものです。

（２）計画の対象と期間

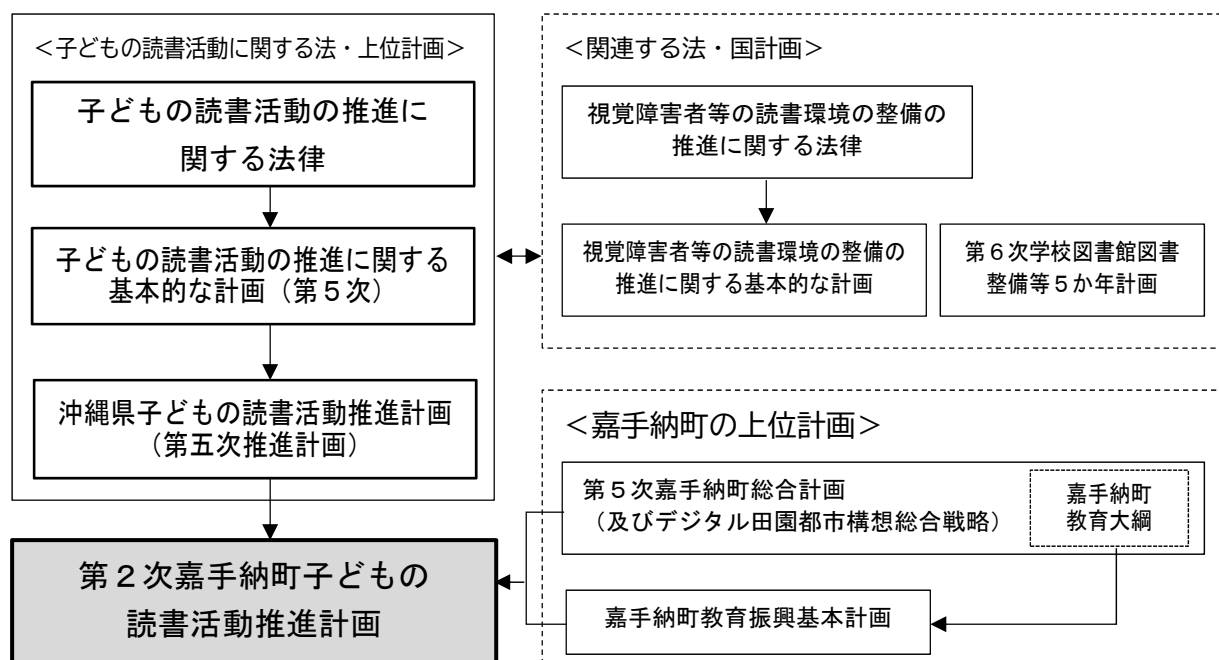
本計画における「子ども」とは、乳幼児から18歳までを対象とします。家庭・地域・学校においては、子どもの読書活動に関わる全ての町民及び団体を対象とします。

計画期間は、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5か年計画とします。

(3) 計画の性格

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の第九条第二項に基づく市町村子ども読書活動推進計画であり、嘉手納町の最上位計画である『第5次嘉手納町総合計画』との整合性を図りつつ、本町における子どもの読書活動の基本的な考え方や具体的推進方策等を明らかにし、子どもの読書活動の総合的な推進を図るものです。

■法・上位関連計画との関係



なお、『沖縄県子どもの読書活動推進計画』（第五次推進計画）では、計画の性格として、多様な子ども達の読書活動を推進するため、「多様な読書」を定義しています。

※『沖縄県子どもの読書活動推進計画』（第五次推進計画）における多様な読書の定義：

【多様な読書とは】

活字の本を読むことだけではなく、マンガや雑誌、新聞を読んだり、CD や DVD などの資料を見たり聞いたりすることで内容を理解することも含まれます。また、インターネットで調べたり、パンフレットなどを読んだり見たりすることで内容を理解することも含まれます。さらに、展示されている模型などを観たり、触ったりすることで内容を理解することも含まれます。

本計画においては、本町に暮らす全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動を行うことができるよう、引き続き環境整備を図っていくとともに、県計画で示されている「多様な読書」の考え方も踏まえ、子ども達が主体的に新しい知識や体験を得るための取り組みを支援し、創造力・読解力を高めていくことを応援していくものとします。

（４）子どもの読書を取り巻く社会動向

①読書環境のデジタル化の推進

学びの場においては、児童生徒に１人１台端末と高速大容量の通信ネットワークを整備する「GIGA スクール構想」が急速に普及し、子どもを取り巻くデジタル環境に大きな変化をもたらしました。

また、近年では、タブレット端末やスマートフォン等で気軽に情報メディアに触れる機会が増大しているとともに、SNS 等の普及により、それらの利用に多くの時間を費やす子どもが増えています。そうした中、情報通信技術により、電子書籍をはじめとした読書も少しずつ広がりを見せています。

今後においては多様化する読書環境への対応を進めていく中で紙媒体とデジタルの有効活用を図り、子ども達が読書に触れる機会を設けていくことが求められます。

②読書バリアフリー法の制定等を踏まえた多様な読書の推進

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（令和元年法律第 49 号「読書バリアフリー法」）の施行により、障がいによって読書が困難な人々の読書環境整備の責務が定められているとともに、障がいの有無に関わらず、全ての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けることができる社会の実現を目指していくことが求められています。そのため、今後においては、アクセシブルな電子書籍（音声読み上げ対応電子図書、デイジー図書、オーディオブック、テキストデータ等）の導入・普及に努めていく必要があります。

また、日本語を母国語としない子どもや外国籍児童生徒等への配慮も求められています。本町にも多くの外国籍児童生徒等が暮らしていることから、言語の違いが障壁とならないよう、積極的な読書環境の整備・充実を図っていくことが求められています。

③学校図書の充実

文部科学省においては、令和 4 年 1 月に第 6 次計画となる『学校図書館図書整備等 5 か年計画』を策定しており、全ての公立小中学校等において学校図書館図書標準の達成を目指すことを位置づけています。具体的には、計画的な図書の更新、学校図書館への新聞の複数紙配備及び学校司書の配置拡充を図ることとしています。

こうした方向性も踏まえつつ、学校図書館の充実に取り組んでいくことが求められます。

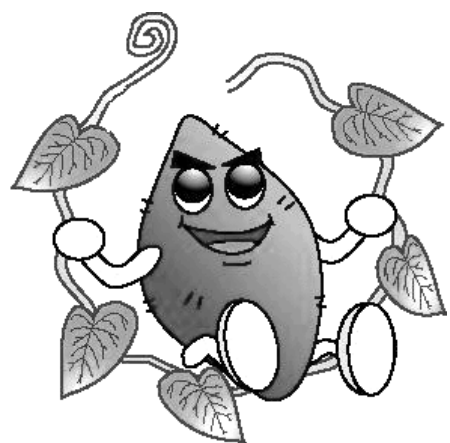
④読書量・読解力の変化、量から質への転換

国の『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第5次）』では、いずれの学校段階においても、推進法が制定された平成13年よりも令和4年の方が「1か月間の平均読書冊数」が増加しているとしています。（小学生 6.2冊→13.2冊、中学生 2.1冊→4.7冊、高校生 1.1冊→1.6冊）

また、日本の子どもの読解力の平均得点は、OECD平均よりも高得点のグループに位置していますが、前回調査から平均得点が統計優位的に低下しており、OECD加盟国37か国中で11位となっています。こうした結果について、我が国においては、複数の文書や資料から情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと、テキストや資料自体の質や信憑性を評価することなどに課題があることを述べています。

こうした状況について、OECD全体の傾向として、本の種類に関わらず、本を読む頻度が2009年と比較して減少傾向にある中、日本はマンガやフィクションを読む生徒の割合が高いものの、新聞、フィクション、ノンフィクション、マンガのいずれもよく読む生徒の読解力の得点が高いと述べています。

そうした中、『沖縄県子どもの読書活動推進計画～五感で拓く多様な読書～』（第五次推進計画）においては、図書貸出冊数を指標としない考えを打ち出し、「量から質への転換」をより一層図っていく必要があるとしています。



第2章 第1次計画期間における現状と課題

<家庭・地域の取り組みについての現状と課題>

【現状の取り組み】

- 町内においては親子読書サークルが地域や教育・保育施設と連携し、定期的な読み聞かせを実施しています。
- 子どもの読書習慣を形成し家庭読書を推進する取り組みとして、乳幼児期の子どもや新しく小学校へ入学する児童のいる子育て家庭への絵本の贈呈「ブックスタート」及び「セカンドブック」に取り組んでいます。

【課題】

家庭においては『子ども達の身近な場所・環境に図書がある体制を構築し、読書習慣を形成する』ことが重要であると第1次計画では示されていますが、その中の施策の方針として位置づけられている「保護者に対する読書の意義や重要性について理解を促し、読書環境を整える」という面が十分果たされていない状況にあります。地域の保護者や子育て家庭を対象とした学習・相談の場（学習会・子育てサークル）の周知が実施されていない他、地域住民だれもが読書に親しむことのできる公共施設図書室の図書資料が劣化し活用困難な状況にあります。また、乳幼児やこれから小学校に入学する子どもへの家庭での読書活動推進の取り組みとしては「ブックスタート」や「セカンドブック」による図書の贈呈が実施されていますが、当該事業による子育て家庭への提供効果や、発達段階に応じた適切な図書の選定については検証を進める必要があります。

<児童館の取り組みについての現状と課題>

【現状の取り組み】

- 「嘉手納地区学習等供用施設・児童館」においては、親子読書サークルの活動場所として活用されています。

【課題】

「屋良地区体育館・図書室」及び「嘉手納地区学習等共用施設・児童館」の二館に併設された図書室については、いずれも情報の古い資料や劣化・破損の著しい図書が多く、第1次計画から引き続き幼児・児童・保護者が求める読書環境のニーズに対応できていないことが課題となっています。計画的な図書購入がなく、読書コーナーの充実や整備に向けた取り組みが実施できていません。両施設は指定管理のもと運営されており、この点も読書活動の推進に向けた働きかけが困難な要因となっています。なお、近年は両施設において読み聞かせ等の活動機会の減少が課題として挙げられます。

<子育て支援センターの取り組みについての現状と課題>

【現状の取り組み】

- 嘉手納町子育て支援センターは地域の子育て支援拠点として乳児と保護者に対する親子交流の促進や育児支援に取り組んでおり、その中で絵本の読み聞かせや保護者への読書活動の働きかけを行っています。
- 日頃から保育士による読み聞かせの他に、年に数回は町内の読み聞かせサークルも参加し、地域の民話等を取り入れた多様な読書の機会の提供に取り組んでいます。また、地域の中高生によるボランティアの読み聞かせの場としても活用されています。
- 子ども達が遊びを通して疑問に思ったこと、興味を持ったことをすぐに調べられるような図書を選定し、施設内に配置しています。
- 町立図書館が同施設内に設置されていることから、子育て支援センター内の蔵書だけでなく町立図書館の図書を積極的に活用するよう推進しています。
- 子育て支援センターを利用する保護者に対し、親子のふれあいの中で読み聞かせが持つ意義や効果などを伝えています。

【課題】

子育て支援センターにおいては保育士による読み聞かせだけでなく、地域の読み聞かせサークルとの連携が求められていますが、現在は年に数回のみの実施にとどまっています。今後も、地域の子ども達が身近なところで読書に親しむ機会を提供できるよう、読み聞かせサークルやボランティア等と一層の連携を図る必要があります。

<保育所・幼稚園の取り組みについての現状と課題>

【現状の取り組み】

- 各保育所・幼稚園においては、乳幼児が自然と図書に触れられるような図書スペースを施設内に確保し、保育士や幼稚園教諭等による読み聞かせに取り組んでいます。また、コロナ禍においては感染予防対策として各施設が家庭への図書貸出を中止していましたが、全園で順次再開されています。
- 読み聞かせに際しては、読み聞かせサークルや地域ボランティア等との連携に取り組んでいるとともに、一部の園では保護者による読み聞かせも実施されています。
- 子どもの成長・発達段階に応じた図書の選定がなされています。
- 一部の園では「園だより」や園内の掲示板等を活用し、読書に関わる情報を提示することで、子どもと保護者が図書への興味・関心を高めるきっかけとなるよう家庭での読書活動を推進しています。
- 地域の文化や歴史をテーマとした図書資料を活用し、子ども達に生まれ育った地域への愛着が育まれるよう支援しています。

【課題】

町内の各教育・保育施設においては、家庭での読書活動推進のために毎日の貸出が行われていますが、第1次計画に引き続き、家庭での保護者の読書活動への参加状況が不明確な点が課題として挙げられています。意識調査等においても「家事・育児の多忙さから読み聞かせに取り組むことが出来ない」と回答する保護者は多く、貸出された本がきちんと活用されているのかを把握し、保護者に対し読み聞かせが子どもの豊かな情操や能力の成長にどのように大切か伝えていく必要があります。

また、施設内の図書は乳幼児が自由に手に取ることのできる環境に置かれていることから、劣化しやすい絵本の取り扱いに関して一部の園では管理方法や計画的な更新、乳幼児に対する図書を大切に作る指導などが配慮されていますが、全ての施設で共有されている事項ではありません。

<小学校・中学校の取り組みについての現状と課題>

【現状の取り組み】

- 児童生徒の読書活動推進のため、教員や児童生徒の要望に応じた図書資料の整備・充実に取り組んでいます。
- 各小学校においては、地域の読み聞かせボランティアによって定期的に全学年への読み聞かせを実施しています。
- 学校図書館のお知らせや新刊案内等を学校独自の「図書館だより」として発刊し、保護者との連絡ツールを介して情報提供しています。
- 学校図書館においては、図書の配置を工夫する等して年齢層に応じた推奨図書の提供に取り組んでいます。
- 町内の学校司書間で連携や交流を図り、学校図書館運営の改善や知識・技術向上を図っています。

【課題】

第1次計画策定時において、本町の児童生徒は学年段階の上昇に伴い読書量が低下することが課題となっていました。近年においても引き続き読書量の減少が課題として示されています。平成30（2018）年度と令和5（2023）年度の町内小中学校の貸出冊数及び貸出人数の比較をみると、屋良小学校においては貸出人数が50人以上増えている一方で冊数が8,000冊以上減少しています。嘉手納小学校・嘉手納中学校ともに30人前後の利用者の減少に伴い、冊数が10,000冊以上減少しています。それぞれの年度内の貸出状況から一人1ヶ月当たりの貸出冊数の変化を案分すると、屋良小学校では平成30年度において一人当たりの平均1ヶ月貸出冊数は12.5冊でしたが、令和5年度においては8.6冊となっており、約4冊程度減少しています。同様に嘉手納小学校では1.5冊の減少（平成30年度：10.4冊→令和5年度：8.9冊）、嘉手納中学校では約2冊の減少（平成30年度：3.7冊→令和5年度：1.7冊）となっています。

■平成 30 年度と令和 5 年度の町立小中学校図書館貸出冊数・人数の比較

貸出冊数	H30	R5	R5-H30	貸出人数	H30	R5	R5-H30
屋良小学校	44,028	35,869	▲ 8,159	屋良小学校	293	349	56
嘉手納小学校	77,881	63,753	▲ 14,128	嘉手納小学校	626	598	▲ 28
嘉手納中学校	20,431	8,880	▲ 11,551	嘉手納中学校	455	424	▲ 31

一方で、近年は県の読書活動推進計画においても、読書の「量」の増加ではなく、読書を楽しむ「質」に着目した取り組みが重要であると示されていることから、児童生徒の読書活動推進にあたっては単純な読書量の増加ではなく、読書の良さを体験し自ら図書に親しむ態度の育成に取り組むことが求められています。

また、屋良小学校においては児童数が小規模であるため、児童総数と連動した学校図書購入のための予算の確保が困難であり、図書資料の充実に課題があります。

<町立図書館の取り組みについての現状と課題>

【現状の取り組み】

- 町立図書館においては日常的な図書館サービスの提供の他に、豊富なイベントの開催を通して子どもや保護者が気軽に来館し、読書に親しむことのできる機会の提供に努めています。
- 町立小学校や子育て支援センターと連携し、図書館施設の活用や職場体験などの受け入れを実施しています。
- マンガや触る絵本、大活字本を導入し、多様な読書機会の提供を図っています。
- 平成 30 年度と令和 5 年度の貸出冊数・人数を比較すると、町民全体では利用者が 800 人以上増加し、冊数も 1,000 冊以上の増加となっています。18 歳までの子どもの利用者でみると、500 人以上の利用者増と 3,000 冊以上の貸出増となっています。

■平成 30 年度と令和 5 年度の町立図書館の貸出冊数・人数の比較

貸出冊数	H30	R5	R5-H30	貸出人数	H30	R5	R5-H30
町民全体	36,896	38,317	1,421	町民全体	7,352	8,197	845
子ども（～18歳）	9,882	13,026	3,144	子ども（～18歳）	1,810	2,340	530

- 参考までに、近隣自治体の令和 5 年度における人口一人当たりの貸出冊数を比較すると、嘉手納町は 4.93 冊／人であり、人口規模が類似している B 町・D 町と比較しても貸出冊数が多いことがうかがえます。

■令和 5 年度の人口一人当たり貸出冊数

冊／人	嘉手納町	A 町	B 町	C 村	D 村
令和 5 年度 平均一人当たり 貸出冊数	4.93	3.10	2.43	2.32	3.74

【課題】

町立図書館は地域の読書活動推進における中核的な役割を担った施設として、町内の子ども・子育て家庭への働きかけに取り組んでいますが、現在の蔵書構成が子どもの発達段階や興味・関心に十分対応しているものとは言い難く、多様な読書ニーズへの対応に課題が見受けられます。また、視聴覚資料を再生・利用するためのＡＶ機器の設置も達成しておらず、これら新規資料の整備のためには施設規模の余裕が十分でない状況です。計画的な除籍や更新、利用者のニーズに応じた資料の整理を図り、常に適切な資料収集が行えるよう整備を図る必要があります。

第3章 基本理念

平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、子どもの読書活動とは『子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの』として位置づけられています。

昨今はデジタル社会の進展や感染症の収束状態への移行など複雑な社会変化が生じており、次代を担う子ども達に対しては様々な変化の状況に適応し、乗り越え、持続可能な社会の創り手となることが望まれています。その上で、読書活動により養われる読解力・創造力・思考力・表現力などは、子ども達が明日を生きる活力や意欲を育む発端となるものです。

また、読書に親しみ得られる充実感や満足感、読み聞かせ等を通じた他者とのコミュニケーションの経験は、生涯にわたる学習意欲の醸成やウェルビーイング（Well-being）にもつながります。

昨今の社会動向や嘉手納町の読書活動にかかる課題等を踏まえつつ、今後より一層の読書活動の充実を図ることで、子ども達の将来を生きる力の向上を目指して、以下の基本理念を定めます。

本を読む力、未来を創る力



第4章 子どもの読書活動推進のための具体的な取り組み

I. 家庭

<読書活動推進に向けた家庭の役割>

家庭における子どもの読書活動は、保護者が子ども達の日常生活へ自然に読書を楽しみ、読書に親しむ機会を提供することが重要な取り組みとなります。乳幼児期における絵本の読み聞かせや、その後の成長過程において自然と読書に触れられる家での環境づくりなどを工夫して、子ども達が本と接するきっかけを作ってあげることが望ましいとされています。

一方で、昨今は子育て家庭の大半を共働き家庭が占めており、仕事や家事・育児の多忙さから読み聞かせに意欲的でない保護者や、保護者自身の活字離れにより本が身近にない生活環境の家庭が一定数あることが基礎調査等からうかがえます。

そこで、子ども達の読書活動の機会充実や習慣化を図るため、読書の重要性の理解促進や、自ら積極的に読書へと関わるような興味・関心を引き出す取り組みが求められています。

<具体的な取り組み>

●家庭での読書活動の推進・充実 【嘉手納町立図書館・保育所・幼稚園・小学校・中学校・子育て支援センター・社会教育課・中央公民館】

家庭において本に親しむ体験や環境づくりを進めるため、乳幼児期の児童と保護者に対してはブックスタート事業やセカンドブック事業での絵本の提供や、保育園・幼稚園・町立図書館等の絵本の貸出を通して日常的に家庭での読み聞かせが行いやすい環境を整えるとともに、保護者に対して読書の重要性への理解促進を図ります。

学童期・青年期の子ども達に対しては、学校図書館や町立図書館の利用促進を図るとともに、保護者との連絡ツールを通して推薦図書の情報提供等を行い、各家庭が積極的に読書に取り組もうとする意識の醸成を働きかけます。

また、毎年4月23日の「子ども読書の日」や毎年10月下旬から11月上旬にかけての「読書週間」を中心に、子育てにおける読書体験とその後の読書習慣の形成の意義を広報誌や子育て相談の場等を介して広く伝え、家庭での読書活動の普及・啓発に取り組みます。

●リサイクル図書の家庭活用の推進 【嘉手納町立図書館】

町立図書館の蔵書更新で除籍される絵本や児童書、文芸書等について、子育て世帯や児童生徒の家庭読書を推進するため、町民へ譲渡して図書の再利用を図ります。

Ⅱ. 嘉手納町立図書館

<読書活動推進に向けた嘉手納町立図書館の役割>

町立図書館は、家庭環境に関わらず全ての子ども達が自主的に読書活動に取り組むことのできる場所として、地域の読書活動推進における中核的な役割を担っています。多様なイベントの実施や、近隣の子育て支援センター・小学校等との連携を通して、町民への施設の周知や活用促進に取り組んでおり、保護者や子ども達が立ち寄りやすく、落ち着ける空間として認知されることで、本に触れるきっかけ作りとなるような働きかけが期待されています。

また、読書活動の推進の上で、多様な利用者の要望に則した図書資料の整備や図書館機能の充実が重要であり、施設規模等を勘案し計画的な整備が図られるよう努めます。

<具体的な取り組み>

●図書館資料の整備・充実 【嘉手納町立図書館】

子ども達一人ひとりが豊富な図書の中から自由に選択し、読書の楽しさを感じたり、豊かな創造性・読解力を身に付けていくことができるよう、絵本等の乳幼児向け図書資料や、文学等の児童・青少年向け図書資料の充実に取り組みます。図書資料の収集にあたっては、子ども達のニーズや発達段階に応じた、質の高い蔵書の選定に努めます。

活字に苦手意識を持つ子どもや障がいのある子どもを含め、すべての子どもが読書に興味・関心を持つきっかけとなるよう、触る絵本や大活字本、マンガ、雑誌などの多様な形態の図書館資料の整備に取り組みます。

また、限られた保存スペースを適切に運用するとともに、長く親しまれ劣化が著しい蔵書の更新を図るため、計画的な除籍を行います。

●読書に親しむ多様なイベントの実施 【嘉手納町立図書館】

定例の読み聞かせ会において、人形あそびを組み合わせた「パネルシアター」や暗がりでも蛍光塗料を活用した「ブラックシアター」など、子ども達の感性を刺激する工夫を凝らした取り組みを実施します。

また、平日忙しい児童生徒や保護者でも参加しやすいよう、土日や長期休暇期間において読書活動推進につながる多様なイベントの開催に努めます。

●子どもの発達に応じた選書の強化 【嘉手納町立図書館】

「ブックスタート」における読み聞かせや「セカンドブック」での図書配布において、子ども達の発達状況に応じた選書を行い、それぞれの年代において保護者や子ども自身が楽しむことのできる図書の活用を促進します。

●児童の子ども司書体験による活躍促進 【嘉手納町立図書館・小学校】

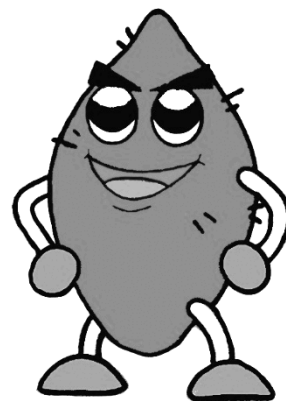
児童生徒が町立図書館に親しみ、利用の機会につなげるため、定期的または長期休暇期間における「子ども司書」の体験実施に取り組みます。

●図書館情報の広報強化 【嘉手納町立図書館】

新刊情報や各種イベントの開催情報などを保護者や児童生徒へ広報し、町立図書館の利用促進につなげるため、SNSを通した情報発信に努めます。

●町立小・中学校との蔵書共有による連携 【嘉手納町立図書館・小学校・中学校】

各学校司書と連携し、嘉手納町立図書館の図書資料を「団体貸出」として、一定数・一定期間、町立小・中学校の学校図書館へ貸し出します。地域に限らず全ての子ども達がより多くの図書に接することのできる機会を創出するとともに、図書整備の制限を有する学校図書館において児童生徒の豊かな読書経験の充実に努めます。



Ⅲ. 屋良地区体育館・図書室／嘉手納地区学習等共用施設・児童館

／子育て支援センター等

<読書活動推進に向けた各施設の役割>

「屋良地区体育館・図書室」及び「嘉手納地区学習等共用施設・児童館」の図書室は、嘉手納地区・屋良地区それぞれの地域住民にとって身近な公共施設として、読書活動に取り組むことができる機能を有しています。

子育て支援センターにおいては、保育士など乳幼児を見守る支援員が設置された環境において、保護者の読み聞かせ等を支援する体制を整えています。

両者ともに、町立図書館や学校図書館以外で広く子どもの読書活動の機会提供に取り組むことが可能な施設ではありますが、図書を専門的に扱う人材や機会が少ないことから、資料の整備・更新等に課題がみられます。

<具体的な取り組み>

●図書資料の更新・充実 【子ども家庭課・子育て支援センター・嘉手納町立図書館】

図書室や図書コーナーの図書資料について、新規購入や町立図書館の団体貸出などを活用しながら地域の子どもや保護者が図書を手に取りやすい環境整備に努めます。

●地域における読み聞かせ機会の充実 【子ども家庭課・子育て支援センター】

保護者や町内の読書サークル等の活動の場として児童館図書室や子育て支援センターを活用し、親子の読み聞かせの機会の充実を図ります。

●公共施設への図書ブース設置の推進 【子ども家庭課・中央公民館・嘉手納町立図書館・

社会教育課】

「屋良地区体育館・図書室」や「嘉手納地区学習等共用施設・児童館」だけでなく、町内の公共施設において町民だれもが手に取って親しむことのできる図書ブースの設置を推進します。

IV. 保育所・幼稚園

<読書活動推進に向けた保育所や幼稚園の役割>

保育所や幼稚園においては、乳幼児期の子ども達が絵本や物語に親しむことによって、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、想像する楽しさを味わう心を養うことを幼児教育・保育のねらいとして位置づけています。子ども達の育みたい資質・能力を伸ばすためには、乳幼児が読書の楽しさを知って積極的に本等に親しむことのできる機会を創出するとともに、図書環境の構築、保護者に対する読書活動への理解促進を働き掛ける必要があります。

<具体的な取り組み>

●子どもの興味・関心を促す読書環境・図書スペースの構築 【保育所・幼稚園】

子ども達が興味・関心を持って自ら本を読もうとする意欲が生まれるよう、発達段階に応じた絵本等を備えた図書スペースを園内に設け、自由に図書に触れることのできる読書環境の構築に取り組みます。絵本の配置や図書スペースの空間づくり等を工夫し、より子ども達が本を選びやすい環境整備に努めます。

●豊かな心を育む読み聞かせの充実 【保育所・幼稚園】

物語を聞くこと、見ることを通じて子ども達の想像力や情緒が育まれ、健やかな発達が促されるよう、継続して「読み聞かせ」や「おはなし会」を実施します。取り組みに際して、保護者や地域ボランティア等とも連携を図ります。また、地域の子育て家庭も含めた読み聞かせ会を実施します。

●嘉手納町の文化に親しむための読書活動の推進 【保育所・幼稚園・中央公民館】

嘉手納町の昔話や地域にまつわる歴史について伝える資料等を活用し、子ども達が自身の身近な地域の文化に触れ親しむことのできる読書活動を積極的に行います。

●保護者への読書活動の啓発 【保育所・幼稚園】

日々の配布物（園だより等）や保護者との連絡ツールを通して子どもの読書活動の大切さを保護者へ伝え、家庭での読み聞かせや読書習慣の形成を推奨します。

園から絵本等の貸出を行い、家庭での読書活動の推進を図ります。

V. 小・中学校

<読書活動推進に向けた学校の役割>

小学校・中学校及びそれぞれの学校図書館においては、児童生徒の豊かな読書活動を支援する他に、授業内容の理解を深め「深い学び」につなげる機能や、図書資料を活用し情報収集・選択・活用能力を計画的に育成する機能を担います。

小学校児童は学年段階が上がるごとに読書の幅や質を高め、主体的・意欲的に読書に親しむとともに、中学生生徒においては自身の展望や社会との関わり方など、考えを広げ深める読書の展開が重要となります。

一方で、成長に伴い日々の多忙さや生活環境の変化から読書離れ・活字離れが進む段階でもあるため、日々の読書習慣の形成や読書機会の提供を積極的に働きかける必要があります。

<具体的な取り組み>

●成長・発達に応じた読書活動の充実 【小学校・中学校】

各学校において学年別推薦図書の設置など、児童生徒の発達段階に応じた読書活動の推進を図り、子ども達の読解力や言語能力の向上を支援します。

また、読書習慣の定着を促すため、身近に本を手にとることができるような環境づくりや隙間時間の読書活動などの取り組みを推進します。

●学校教育における図書資料の活用 【小学校・中学校】

調べ学習や授業等において学校図書館や町立図書館の資料を計画的に活用し、児童生徒が授業内容をより深く学ぶことで主体的・意欲的な学習活動につながるよう努めます。

●地域と連携した読書機会の確保 【小学校・社会教育課】

保護者や地域のボランティア等と連携し、子ども達が読書への関心を高め、言語能力や想像力などの基礎的な力を育めるような読み聞かせを実施します。各学校配置の地域コーディネーターとも連携し、児童によるおすすめ本の募集や紹介を検討します。

●学校図書館資料の整備・充実 【小学校・中学校・嘉手納町立図書館】

国の学校図書館図書標準における蔵書の配分率を満たすことは元より、生徒や教職員の要望に応じた資料の選定・充実に努めます。適切な蔵書管理のため、蔵書の廃棄基準の設定や定期的な更新を行います。

また、不足資料については、町内学校間や町立図書館とも連携した蔵書活用を図ります。今後は、ICTを活用した読書活動についても推進を検討します。

●学校図書館運営の体制整備 【小学校・中学校】

図書館教育担当教諭と学校司書等が連携・協力して、計画的・組織的に学校図書館運営に参画します。また、研修等を通じて司書間の連携や交流を図り、取り組みの参考事例を収集するなど、学校図書館運営の質的向上を図ります。

●「しまくとうば」や地域固有の文化を活かした読書活動の展開 【小学校・中学校・中央公民館】

沖縄文化の「しまくとうば」や嘉手納町の歴史・伝承を伝える副読本など、地域固有の文化に触れる図書資料の紹介や読み聞かせを通して、地域への愛着を深める読書活動に取り組みます。

●ビブリオバトル（書評合戦）の活動推進 【社会教育課・指導課・小学校・中学校・

嘉手納町立図書館】

学童期の子ども達がゲーム感覚で楽しみながら図書への関心を深められるよう、ビブリオバトルの取り組みを推進します。嘉手納町教育委員会が主催する生涯学習フェスティバル「はいさい！いちやりば祭」など、発表機会の充実に努めます。

ビブリオバトルとは・・・



2007 年に京都大学から広まった読書会の手法。「ビブリオ (biblio・書籍)」+「バトル (戦い)」の名のとおり、参加者同士がおススメの図書を持ち寄って内容をプレゼンテーション式に紹介し、「どの本が一番読みたくなったか？」を投票形式で競わせる取り組みです。

嘉手納町では中学2年生の国語の授業等に取り入れられ、本との出会いや人との出会いにより、表現読書活動の充実を図ってきました。



▲図書をアピールする参加者と白熱したバトルに釘付けの審査員



▲出演の皆さんで記念撮影

資料編

I. 子どもの読書活動推進計画 アンケート調査結果

(1) 調査概要

●調査目的

嘉手納町内の子どもの読書活動の現状や読書へのニーズ把握を行い、『嘉手納町子どもの読書活動推進計画』策定の基礎資料とするため、未就学児及び児童生徒の保護者と、町立小・中学校に在籍する児童生徒へのアンケート調査を実施した。

●調査期間・回収状況・調査対象

【保護者】町立保育所・町立幼稚園・町立小学校（全二校）・町立中学校に通う乳幼児・児童生徒の保護者全数

【児童生徒】町立小学校（全二校）・町立中学校に通う児童生徒全数

回収 結果	保護者			児童生徒		
	未就学児 保護者	小学生 保護者	中学生 保護者	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生
実施 期間	令和6年12月23日～ 令和7年1月16日			令和7年1月16日～1月29日		
配布数	278 名	960 名	415 名	495 名	465 名	415 名
回収数 (回収率)	203 人 (73.0%)	341 人 (35.5%)	118 人 (28.4%)	380 名 (76.8%)	241 名 (51.8%)	189 名 (45.5%)

●調査方法：WEBフォームによるインターネットからの配布・回収（一部紙による配布・回収も実施）

●回収率の信頼度について：各調査対象の有効回収率について、母集団となる配布数の規模を踏まえると、「中学生保護者」以外の調査結果は信頼度※95%、許容誤差※5%を達成している。一方、「中学生保護者」の調査結果については、信頼度80%以上、許容誤差5%となっている。このことから、「中学生保護者」調査においてはその他の調査結果と精度の差がある点にご留意いただきたい。

※信頼度：対象となる調査結果がどれほど信頼できるものかを示す一指標。信頼度95%とは、同じ調査を100回実施した場合に、95回は同一傾向を示す結果が出力される回収数であることを意味する。

※許容誤差：対象となる調査結果が、母集団全体と比較してどの程度の誤差を生じる可能性があるかを示す一指標。許容誤差5%とは、特定の設問に関してサンプル全体の集計結果が90%であった場合、母集団全体では90%±5%の集計結果が出力される可能性があることを意味する。

●その他注意する点

- ・百分率（％）の計算は、小数点第２位を四捨五入し、小数点第１位まで表示した。したがって、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で全回答を足し合わせた際に 100％とならない場合がある。また、四捨五入の影響で各選択肢の該当率と、その割合を足し合わせた該当率が合わない場合がある。
- ・複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、割合の合計が 100％を超える場合がある。
- ・表やグラフの「N」「n」は、標本の大きさ（集計対象者数）を示している。

●調査結果

(1) 読書活動に対する保護者への意識調査結果

実施対象：子どものいる保護者（小学校、中学校、幼稚園、保育所、子育て支援センター）

問1 本調査に回答した保護者の子どもの年齢層・学校段階について（複数記載可）

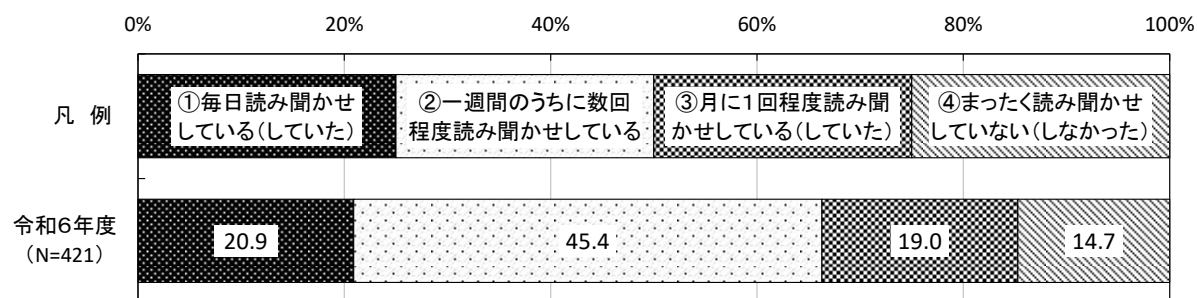
0～6歳 (乳幼児・保育所・幼稚園)	小学生	中学生
203人	341人	118人

問2 あなたは、お子さんによく読み聞かせをしていますか。または、お子さんが小さい頃によく読み聞かせをしていましたか。（あてはまるもの1つに○）

- ①毎日読み聞かせしている(していた) ②一週間のうちに数回程度読み聞かせしている(していた)
③月に1回程度読み聞かせしている(していた) ④まったく読み聞かせしていない(しなかった)

読み聞かせの頻度について、「②一週間のうちに数回程度読み聞かせしている(していた)」が5割弱（45.4%）と最も高く、次いで「①毎日読み聞かせしている(していた)」が約2割（20.9%）となっており、①と②を合わせると『週に数回以上読み聞かせしている(していた)』との回答が7割弱（66.3%）となっている。一方、「④まったく読み聞かせしていない(しなかった)」が1割強（14.7%）みられる。

問2 読み聞かせの状況



問2 読み聞かせの状況

(単数回答)

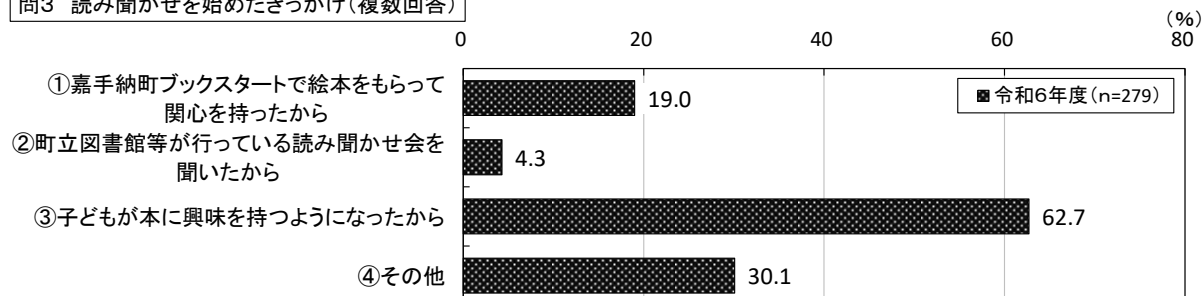
	件数	割合(%)
①毎日読み聞かせしている(していた)	88	20.9
②一週間のうちに数回程度読み聞かせしている(していた)	191	45.4
③月に1回程度読み聞かせしている(していた)	80	19.0
④まったく読み聞かせしていない(しなかった)	62	14.7
合 計	421	100.0

問3 前問で①・②と答えた方にお聞きます。読み聞かせを始めたきっかけはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

- ①嘉手納町ブックスタートで絵本をもらって関心を持ったから
②町立図書館等が行っている読み聞かせ会を聞いたから
③子どもが本に興味を持つようになったから ④その他()

前問で毎日または週に数回程度読み聞かせをしていると回答した方（n=279）に、読み聞かせを始めたきっかけを尋ねたところ、「③子どもが本に興味を持つようになったから」が6割強（62.7%）と最も高く、次いで「①嘉手納町ブックスタートで絵本をもらって関心を持ったから」（19.0%）、「②町立図書館等が行っている読み聞かせ会を聞いたから」（4.3%）となっている。その他のきっかけとして、「幼稚園から絵本を借りてくるから」（13件）、「読み聞かせが子どもに良いと聞いたから」（10件）といった意見がみられる。

問3 読み聞かせを始めたきっかけ(複数回答)



問3 読み聞かせを始めたきっかけ

n=279 (複数回答)

	件数	割合 (%)
①嘉手納町ブックスタートで絵本をもらって関心を持ったから	53	19.0
②町立図書館等が行っている読み聞かせ会を聞いたから	12	4.3
③子どもが本に興味を持つようになったから	175	62.7
④その他	84	30.1

【その他】

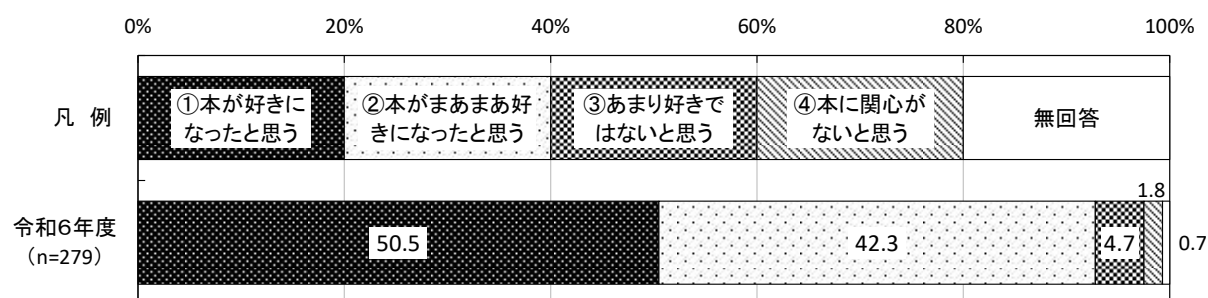
- ・幼稚園から絵本を借りてくるから(13件) ・読み聞かせが子どもに良いと聞いたから(10件)
- ・子どもに本を好きになって欲しかった(9件) ・子どもが生まれたら読み聞かせしたいと思っていた(6件)
- ・元々絵本が好きだから(4件) ・保育園で絵本の読み聞かせを推奨していた(4件)
- ・定期的に絵本購入していた(5件) ・寝かしつけの為(3件) ・読み聞かせは必要だと思っていた(2件)
- ・自分自身も読み聞かせをして貰い育ったから(2件) ・You Tube など(2件)
- ・読み聞かせによって得られる成長があるから ・色々な物に興味、関心をもってくれたらと思い
- ・読み聞かせは言葉の習得、内容読解にもつながる、また心の教育にも良いためやっていた
- ・子どもの情緒教育のため ・親が本好きだから ・絵本が心を育むと思っているから
- ・学校から毎日本を借りてくるから ・きょうだいの上の子にも読み聞かせをしていたので
- ・子どもとのコミュニケーションの一環 ・私が本に囲まれた家庭で育ったから
- ・子どもに本を好きになってもらい、読み聞かせをしてあげたかったから
- ・周囲で読み聞かせをしている方がいたから ・出産祝いに本を頂いて
- ・本を読んだら沢山言葉を覚えると思った為
- ・書店に行く事が多く、絵本コーナーも見えていた為 ・親が本を買って、それを読み聞かせしている
- ・親の私たちが本好きだったため、子ども達にも本を好きになってもらいたいと、産まれる前から、お腹に読み聞かせしていました ・親子の時間を作るために ・他市町村のブックスタート
- ・乳幼児の時から読み聞かせをしていた ・脳の発達を促せるから ・保育士だったので
- ・保育士の仕事をしており、読み聞かせの大切さを感じるから
- ・保育士の為、絵本の読み聞かせを通して子どもとのコミュニケーションをとることが大事だと考えていた

問4 設問2で①・②と答えた方にお聞きます。読み聞かせを行ったことで、お子さんが本に関心を持つようになったと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- ①本が好きになったと思う ②本がまあまあ好きになったと思う ③あまり好きではないと思う
④本に関心がないと思う

問2で毎日または週に数回程度読み聞かせをしていると回答した方(n=279)に、読み聞かせが子どもの本への関心度に影響を与えたか尋ねたところ、「①本が好きになったと思う」が約5割(50.5%)、「②本がまあまあ好きになったと思う」が4割強(42.3%)となっており、①と②を合わせると『本が(まあまあ)好きになったと思う』との回答が9割強(92.8%)を占める。一方、「③あまり好きではないと思う」(4.7%)及び「④本に関心がないと思う」(1.8%)はわずかな割合にとどまる。

問4 読み聞かせにより子どもが本に関心を持つようになったと思うか



問4 読み聞かせにより子どもが本に関心を持つようになったと思うか

(単数回答)

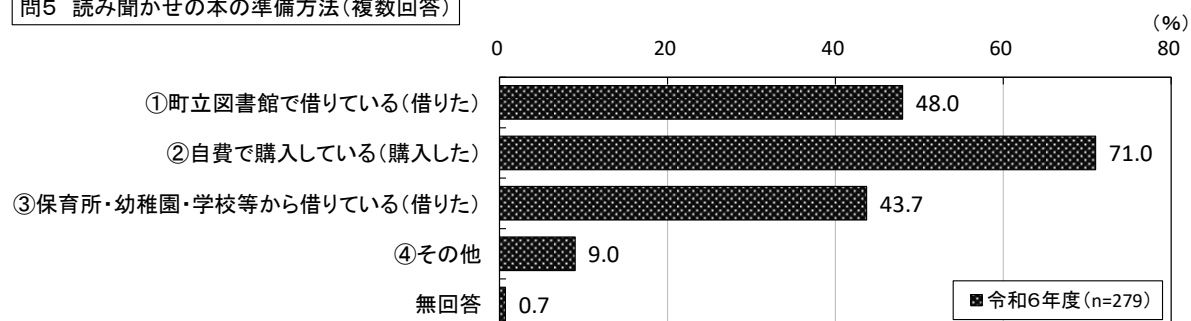
	件数	割合(%)
①本が好きになったと思う	141	50.5
②本がまあまあ好きになったと思う	118	42.3
③あまり好きではないと思う	13	4.7
④本に関心がないと思う	5	1.8
無回答	2	0.7
合 計	279	100.0

問5 設問2で①・②と答えた方にお聞きます。読み聞かせの本はどのように準備しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| ①町立図書館で借りている(借りた) | ②自費で購入している(購入した) |
| ③保育所・幼稚園・学校等から借りている(借りた) | ④その他() |

問2で毎日または週に数回程度読み聞かせをしている(していた)と回答した方(n=279)に、読み聞かせの本の準備方法を尋ねたところ、「②自費で購入している(購入した)」が7割強(71.0%)と最も高く、次いで「①町立図書館で借りている(借りた)」が5割強(48.0%)、「③保育所・幼稚園・学校等から借りている(借りた)」が4割強(43.7%)となっている。その他の意見として、「もらった・お下がり」といった回答に加え、定期購読や電子書籍・動画サイトを利用している(利用していた)という回答もみられた。

問5 読み聞かせの本の準備方法(複数回答)



問5 読み聞かせの本の準備方法

n=279 (複数回答)

	件数	割合(%)
①町立図書館で借りている(借りた)	134	48.0
②自費で購入している(購入した)	198	71.0
③保育所・幼稚園・学校等から借りている(借りた)	122	43.7
④その他	25	9.0
無回答	2	0.7

【その他】

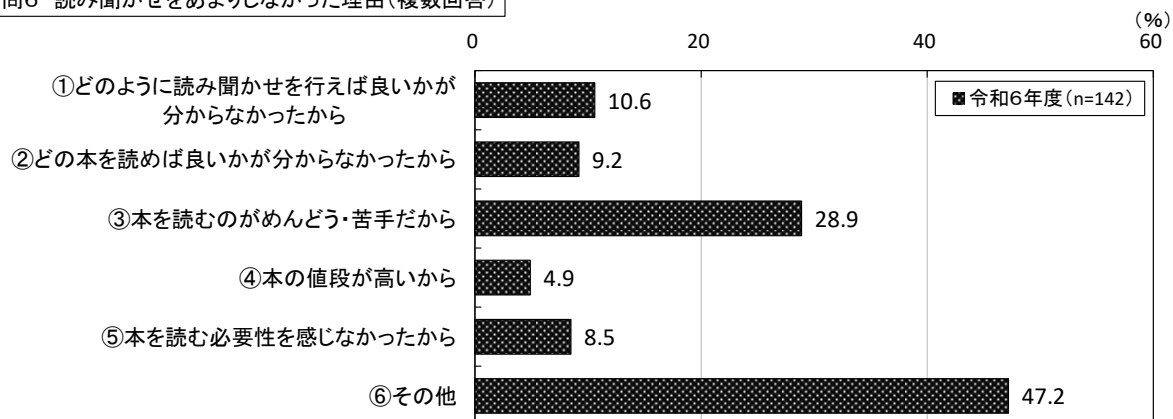
- ・いろいろな人から本をもらった(11件) ・きょうだいやいとこなどのお下がり(6件) ・You Tube など(2件)
- ・電子書籍(2件) ・叔母が毎月本を送ってくれた
- ・自分で購入すると本の偏りがあるため、毎月送られてくる本を契約してジャンルの幅を広げるようにしている
- ・先輩ママからゆずっていただいた ・他市町村で借りた ・手が届く場所に本を用意していた
- ・祖父母からのプレゼント ・保育園で毎月本を購入していた

問6 設問2で③・④と答えた方にお聞きます。読み聞かせをしなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- ①どのように読み聞かせを行えば良いかが分からなかったから
 ②どの本を読めば良いかが分からなかったから ③本を読むのがめんどろ・苦手だから
 ④本の値段が高いから ⑤本を読む必要性を感じなかったから ⑥その他()

問2でまったく読み聞かせしていない(していなかった)、または月に1回程度読み聞かせをしている(していた)と回答した方(n=142)に、読み聞かせをしなかった理由を尋ねたところ、「③本を読むのがめんどろ・苦手だから」が3割弱(28.9%)と最も高くなっている。なお、「⑥その他」と回答した割合が5割弱(47.2%)と高く、その内容をみると「家事、育児で読み聞かせをする時間がとれなかった」(34件)という意見が多数あった。

問6 読み聞かせをあまりしなかった理由(複数回答)



問6 読み聞かせをあまりしなかった理由

n=142(複数回答)

	件数	割合(%)
①どのように読み聞かせを行えば良いかが分からなかったから	15	10.6
②どの本を読めば良いかが分からなかったから	13	9.2
③本を読むのがめんどろ・苦手だから	41	28.9
④本の値段が高いから	7	4.9
⑤本を読む必要性を感じなかったから	12	8.5
⑥その他	67	47.2

【その他】

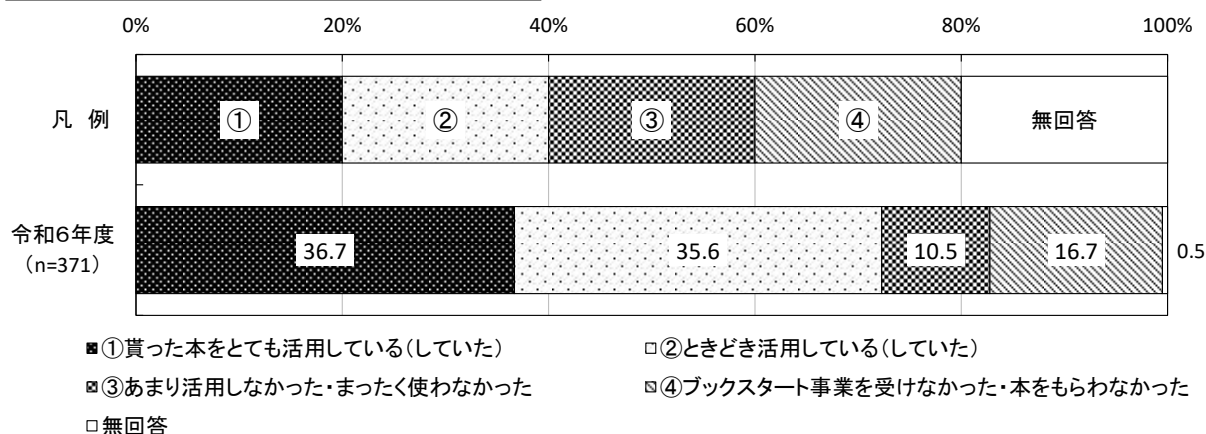
- ・家事、育児で読み聞かせをする時間がとれなかった(34件) ・自分で好きな本を選んで読んでいる(6件)
- ・子どもが本に興味をあまり示さなかった(3件) ・希望がある時だけ読み聞かせしている(3件)
- ・読み聞かせ習慣が無かった(2件) ・仕事の残業や家事で疲れて本読みをするまでの体力がなかった(2件)
- ・読み聞かせをしたかったが、子どもが嫌がってできなかった
- ・いろいろやっていたらいつのまにか時間が過ぎて寝る時間になっているので読み聞かせまでいかない
- ・一緒に読んだり、子どもが読んでくれたりした ・自分で読むようにしてほしいから
- ・子ども達が小さい頃に義母の介護が始まり、読み聞かせなどをする時間がなかった
- ・習い事して帰りが遅く夜はバタバタなので集中して聞けなかった
- ・寝る時間が遅くなってしまい、本をあまり読めていない ・生活するのに必死
- ・第一子、第二子、第三子の幼少期は、週2~3回やっていましたが、第四子は時間に追われてやっておりません
- ・中学生なので、本人に任せている ・町立図書館に行ける日が限られている為
- ・長男の時は毎日していましたが、次男の時は自分に余裕がなくてあまり読み聞かせができませんでした
- ・長男は自分で読むことが好きで、下の子は読み聞かせをしても聞かないから
- ・読みたい本など借りてこなくなった ・読もうとしたら拒否される ・読んでも聞いてない
- ・疲れて一緒に寝落ちしていたから ・幼児に行うものだと思っていたため

問7 0歳～12歳までのお子さんがある保護者の方へお聞きます。嘉手納町の子ども達へ支援員の読み聞かせと本の贈呈を実施する取り組み・『ブックスタート事業』(H24 開始)について、贈呈された本はご家庭でも活用されましたか。(あてはまるもの1つに○)

- ①貰った本をとても活用している(していた) ②ときどき活用している(していた)
 ③あまり活用しなかった・まったく使わなかった
 ④ブックスタート事業を受けなかった・本をもらわなかった

0歳～12歳の子どもがいる保護者の方(n=371)に、『ブックスタート事業』で贈呈している本を活用しているか尋ねたところ、「①とても活用している(していた)」が4割弱(36.7%)、「②ときどき活用している(していた)」が4割弱(35.6%)となっており、①と②を合わせると『(とても+ときどき)活用している(していた)』との回答が7割強(72.2%)を占める。一方、「③あまり活用しなかった・まったく使わなかった」は約1割(10.5%)みられる。

問7 『ブックスタート事業』で贈呈された本は活用したか



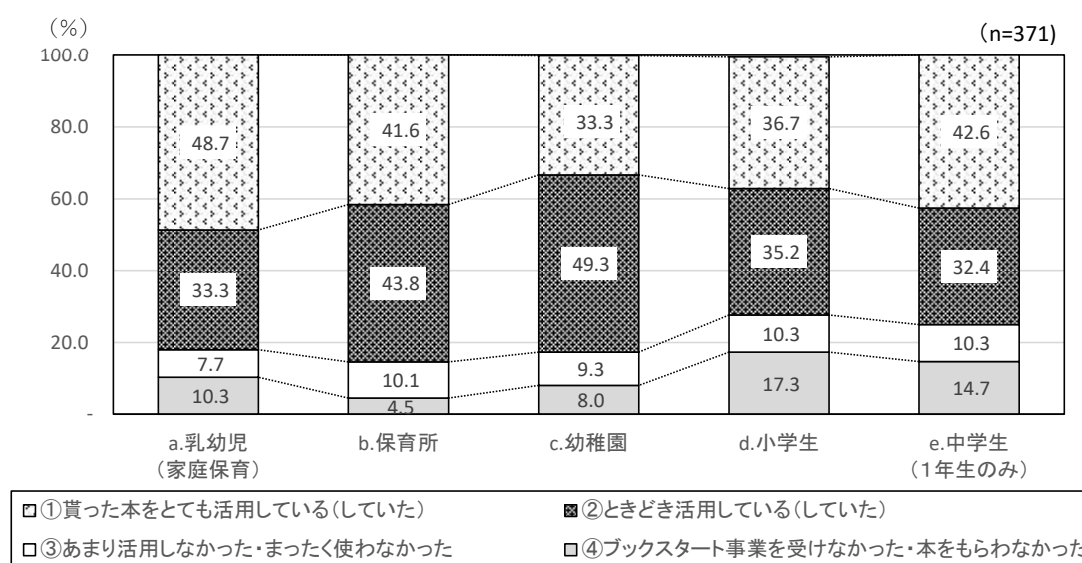
問7 『ブックスタート事業』で贈呈された本は活用したか

(単数回答)

	件数	割合(%)
①貰った本をとても活用している(していた)	136	36.7
②ときどき活用している(していた)	132	35.6
③あまり活用しなかった・まったく使わなかった	39	10.5
④ブックスタート事業を受けなかった・本をもらわなかった	62	16.7
無回答	2	0.5
合 計	371	100.0

満1歳までの乳児と保護者に絵本を贈呈するブックスタート事業の活用状況について学校段階別にみると、本を『活用している（①+②）』と回答した「a. 乳幼児（82.0%）」「b. 保育所（85.4%）」「c. 幼稚園（82.6%）」の児童保護者が8割強～9割弱程度いる一方で、「d. 小学生（71.9%）」「e. 中学生（75.0%）」の児童生徒保護者は7割強～8割弱程度となっており、1割程度の差がみられた。

ブックスタート事業が本町で開始されたのが平成24年度からであることを踏まえると、事業開始当初にかつて対象であった小・中学生児童生徒（中学生は1年生のみ）よりも、近年事業対象であった0～6歳児童の方が僅かに当該事業の活用がなされていることがうかがえる。特に、「b. 保育所」「c. 幼稚園」の児童保護者では、「④ブックスタート事業を受けなかった・本をもらわなかった」とする回答がいずれも1割以下にとどまっている。



問7 『ブックスタート事業』で贈呈された本は活用したか × 問1 子どもの状況 (単数回答)

上段:件数 下段:割合		問7 『ブックスタート事業』で贈呈された本は活用したか					
		合計	① 貰った本をとても活用している (していた)	② とときどき活用している (していた)	③ あまり活用しなかった・まったく使わなかった	④ ブックスタート事業を受けなかった・本をもらわなかった	無回答
問1 子どもの状況	全体	371 100.0	136 36.7	132 35.6	39 10.5	62 16.7	2 0.5
	a 乳幼児	39 100.0	19 48.7	13 33.3	3 7.7	4 10.3	-
	b 保育所	89 100.0	37 41.6	39 43.8	9 10.1	4 4.5	-
	c 幼稚園	75 100.0	25 33.3	37 49.3	7 9.3	6 8.0	-
	d 小学生	341 100.0	125 36.7	120 35.2	35 10.3	59 17.3	2 0.6
	e 中学生	68 100.0	29 42.6	22 32.4	7 10.3	10 14.7	-

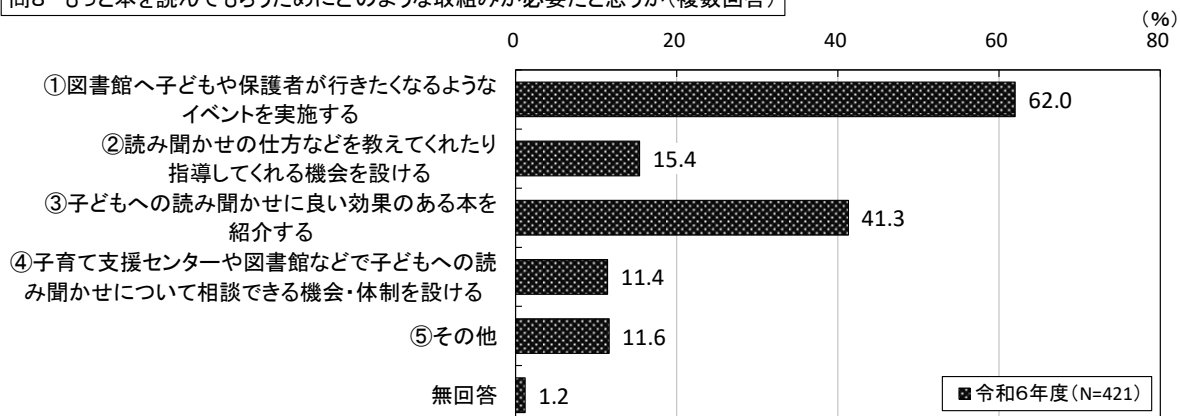
問8 もっと子ども達へ本を読んでもらうためには、嘉手納町として、どのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ①図書館へ子どもや保護者が行きたくなるようなイベントを実施する
- ②読み聞かせの仕方などを教えてくれたり指導してくれる機会を設ける
- ③子どもへの読み聞かせに良い効果のある本を紹介する
- ④子育て支援センターや図書館などで子どもへの読み聞かせについて相談できる機会・体制を設ける
- ⑤その他()

子ども達に本を読んでもらうために必要な取り組みについて、「①図書館へ子どもや保護者が行きたくなるようなイベントを実施する」が6割強(62.0%)と最も高く、次いで「③子どもへの読み聞かせに良い効果のある本を紹介する」が4割強(41.3%)となっている。

また、「⑤その他」として、選択肢以外のアイデアや意見について多数回答があった。その内容をみると、『図書館の利便性向上』や『本を読む機会の創出』、『学校生活における取り組みの工夫』、『親の理解と教育』、『本に関する情報提供』など様々な意見が挙げられている。

問8 もっと本を読んでもらうためにどのような取り組みが必要だと思うか(複数回答)



問8 もっと本を読んでもらうためにどのような取り組みが必要だと思うか N=421(複数回答)

	件数	割合(%)
①図書館へ子どもや保護者が行きたくなるようなイベントを実施する	261	62.0
②読み聞かせの仕方などを教えてくれたり指導してくれる機会を設ける	65	15.4
③子どもへの読み聞かせに良い効果のある本を紹介する	174	41.3
④子育て支援センターや図書館などで子どもへの読み聞かせについて相談できる機会・体制を設ける	48	11.4
⑤その他	49	11.6
無回答	5	1.2

【図書館の利便性向上】

- ・図書館の利用方法を事前に知りたい。
- ・とても嘉手納の図書館はきれいで、利用しやすいと感じています。
- ・駐車場の確保(濡れないよう) ・駐車場を増やす。返却口を町内のスーパーや施設などに増やす。
- ・移動図書や図書館返却を、専用バッグで学校にポスト設置や郵便ポストで返却できるようにする。
- ・沖縄市の「ちえぞう君」の様な移動図書館バス
- ・子どもの好きな本をたくさん置く。 ・子どもが読みたくなる本を学校の図書室に置いて欲しい。
- ・蔵書数を増やしてほしい。図書館内で子どもが読む席が少ないように感じるので増やしてほしい。
- ・大人の図書館と子どもの図書館のスペースを分ける。図書館に行きたいが子どもが話すと大人の目が気になる。
- ・図書館に行く時間を作るのが難しいので、オンラインでの読み聞かせで、その場に沢山の子も達がいれば自然と一緒に見てくれるのではないかと思います。
- ・読み聞かせグループ、一人の読み聞かせではなく大型絵本や、数名で案を出し、子ども達が楽しみ、本にさらに興味をもつ工夫をしたら楽しそうだと思います。一人ではハードルが高い感じですが、できる時にというスタイルで、グループだと気軽に参加できやすいと思う。
- ・本を借りるとポイントが付いたり、それに応じて文具やお菓子がもらえるなどの制度
- ・来館スタンプなど、小学生を対象に実施する。 ・図書カードなどの補助、電子図書

【本を読む機会の創出】

- ・町のイベントなどで本を読むブースを設置し、本を読む機会を増やす。 ・本をプレゼントする。
- ・ブックスタートの1回だけではなく、節目で絵本を配布してくれると助かるし活用しやすい。
- ・親の影響が8割で、3歳までに本と触れ合えるかどうかが鍵だと思うので、要所要所で本をもらう機会が増えるといいと思う。(例:6ヶ月健診、1歳健診、1歳半健診、3歳健診)
- ・自由なタイミングで、好きな本が買えるように、図書カードなどを配布する。
- ・保育園の絵本貸し出しの冊数を増やして頂きたいです(絵本は高価なのでたくさん買えないこと、図書館の本は破ったり落書き等に気を使うこと)。故意に落書き等は駄目ですが、園児達のたくさんの絵本を皆で気兼ねなく使えたらいいと思います。
- ・他市でしたが、保育園から絵本を借りて家族で毎日読み聞かせていました。共働きで子どもとの時間もあまりとれない中、絵本だと読みやすく貴重な時間となりました。このような機会を頂けて、子どもは本が好きになったと思います。
- ・読み聞かせ会等に親子で参加すれば、親は見本となる方に教わる機会になったり、子どもは「読んで」と積極的になるかもしれない。
- ・多様化している時代、読み聞かせの意識が低くなってきている感じがある。集団では無くアットホームで気軽に読み聞かせ出来る環境があると良いと思う。
- ・子どもが本を読みたいと思った時に読める場所を確保する。

【学校生活における取り組みの工夫】

- ・図書館も利用しているが、まだまだ読書冊数が足りていないので、学校で毎日読書の機会を10分程度取ってほしい。本に興味がないと自由時間に図書室に自分から行かないから。
- ・学校での取り組みも大きな影響があると思うので、ゆっくり読書する時間があるといいと思います。
- ・学校で読書の時間を設ける。 ・学校で15分くらいでも読書タイムをつくる。
- ・小学校や幼稚園でもっと読書の時間を増やす。
- ・学校などで、読む機会を作ってほしい。読み聞かせの時間があってもいいと思う。
- ・高学年が低学年に読み聞かせをする。
- ・子ども達同士、図書館で借りた本が面白かった等、話している様なので、学校の図書館で本を借りて自宅に持ってきて読む。
- ・小学校の図書館をもっと活用できるようにして欲しい(放課後や休み時間など)。
- ・学校行事で紙芝居の人を呼んだり、マペットの劇で物語の魅力を伝えたら、本の興味がわくかもしれません。 ・校内放送で、ラジオドラマのような想像力が膨らむお話を流してはどうでしょうか。

【親の理解と教育】

- ・まずは大人から絵本が心にどう影響を与えるのかを学ぶ機会を増やし、大人が本を好きになることで、子どもがそれを見て本を好きになるというサイクルが理想だと思う。
- ・親が読み聞かせの効果や本に興味を持つように、何か対策が必要かと思います。
- ・親が本を読む習慣をつけたら、本に触れると子どももマネをして本に興味を持つのではないかな。
- ・親世代への取り組みも必要かなと思います。親が読み聞かせの大切さを知って、読み聞かせを行っていたら、子どもも読書が好きになると思うから。
- ・保護者が子育てについての知識と実施できるゆとりがあると良いと思います。保護者が難しい場合は学校等で読書の時間を確保してもらったり、読み聞かせを聞く機会を多く持つくらいは思い付きません。すみません。
- ・こんな時が「読み聞かせのチャンス」みたいな時間の使い方があれば取り入れたい。
- ・私たちの子どもは、何も言わなくても本を自ら読むようになっている事から、小さい頃からの家での習慣が1番効果的だと感じます。子どもにとって、読み聞かせが大事ということをもっと私たち親が理解するようになれば良いと思うので、親に対しての取り組みがあると良いと思います。

【本の情報提供】

- ・図書館では夏休み等だけでなく、課題図書まではいかないが、「1年生はこの本」とかの読みやすいおすすめがわかりやすい場所にあると助かります。下の子の絵本を探しているが、上の子は自分で探し、いつまでも絵本を持ってくるので、物語で字が大きくショートストーリーのおすすめがあったら嬉しい。
- ・「私のオススメの本の紹介文コンテスト」で一番読まれた本の紹介者を表彰するのはどうか。普段読まない子が友だちの勧めで興味を持ったり、本を読む習慣のある子は誰も知らない本を発信する楽しみに繋がるのではないかな。
- ・押し付けることなく、いろいろな情報から個々人で興味をもてば良い。
- ・親の努力だと思います。『こんな本がオススメ』という年齢別、目的別にチラシを作って、定期的に配布すると興味を持って貰えるのではないのでしょうか。その際に、手に入りにくい本ではなく、一般的な本が良いと思います。
- ・どの本が読みたいかアンケートを実施する。

【その他】

- ・外で遊ぶことが良い。・読む子は読む。
- ・家庭や個人の問題であり、町が対策するものではない。
- ・面白い面白くないかだけが重要だと思います。
- ・面白い本があれば子どもは行くと思うし、本を読むことにつながるイベントなんてないと思う。

実施対象：小学1～6年生、中学生

Q1 回答者の学年層について

小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生
380 人	241 人	189 人

Q1 学年 (単数回答)

	件数	割合 (%)
小学1年生	98	12.1
小学2年生	127	15.7
小学3年生	155	19.1
小学4年生	104	12.8
小学5年生	66	8.1
小学6年生	71	8.8
中学1年	28	3.5
中学2年	80	9.9
中学3年	81	10.0
合 計	810	103.0

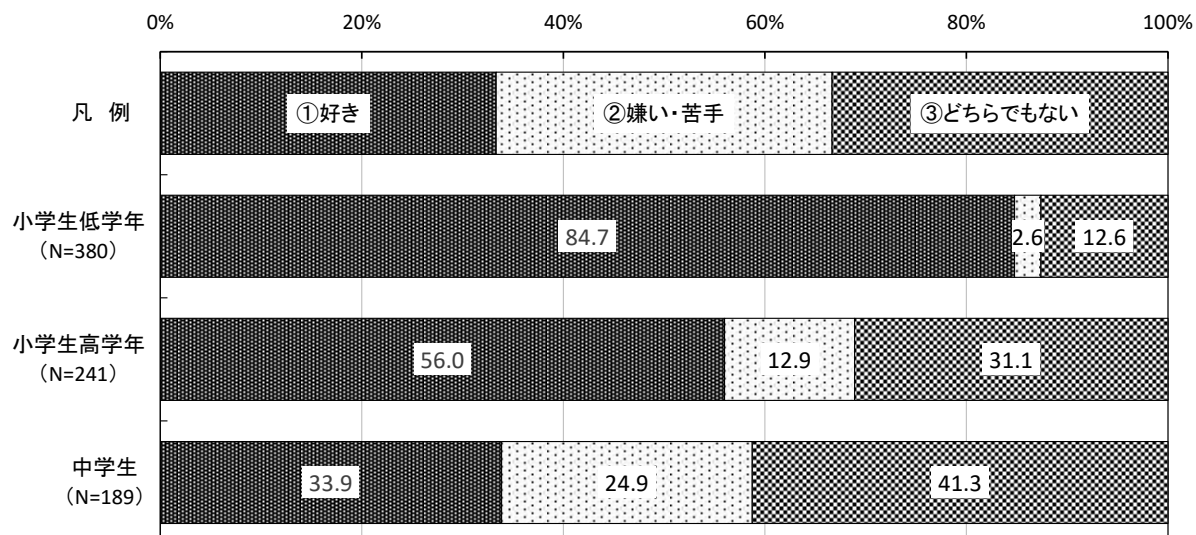
Q2 あなたは、本を読むことは好きですか。

①好き	②嫌い・苦手	③どちらでもない
-----	--------	----------

本を読むことについて、小学生(低学年)では「①好き」が8割強(84.7%)を占め、「②嫌い・苦手」は1割未満(2.6%)にとどまる。小学生(高学年)では「①好き」が6割弱(56.0%)、「②嫌い・苦手」は1割強(12.9%)となっている。

一方、中学生では「③どちらでもない」という回答が4割強(41.3%)と最も高く、次いで「①好き」が3割強(33.9%)、「②嫌い・苦手」が2割強(24.9%)となっている。読書に対して比較的好ましい印象を持っている小学生の結果と比べ、中学生では「好き」と「嫌い・苦手」の差が小さくなっていることがうかがえる。学年層によって大きく回答割合が異なり、学年層が上がるにつれて「①好き」の割合が低く、「②嫌い・苦手」及び「③どちらでもない」の割合が高くなっている。

Q2 本を読むことの好き嫌い

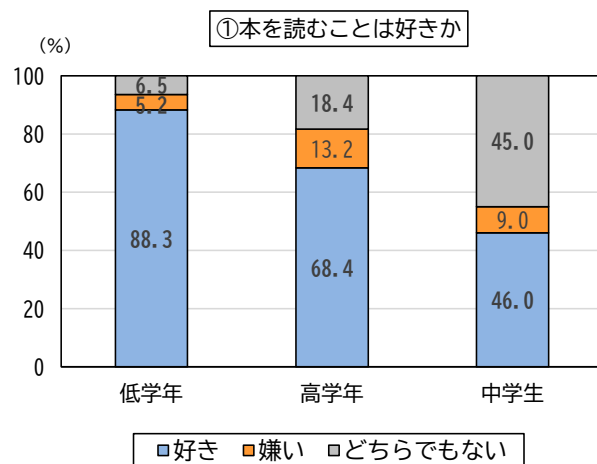


Q2 本を読むことの好き嫌い

(単数回答)

	小学生低学年		小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①好き	322	84.7	135	56.0	64	33.9
②嫌い・苦手	10	2.6	31	12.9	47	24.9
③どちらでもない	48	12.6	75	31.1	78	41.3
合 計	380	100.0	241	100.0	189	100.0

<令和2年調査との比較>



令和2年の調査結果と比較すると、いずれの学年層においても「読書が好き」と回答した割合が今年度は僅かに減少している。

Q3 Q2で「本を読むことは ②嫌い・苦手」と答えた方へお聞きします。

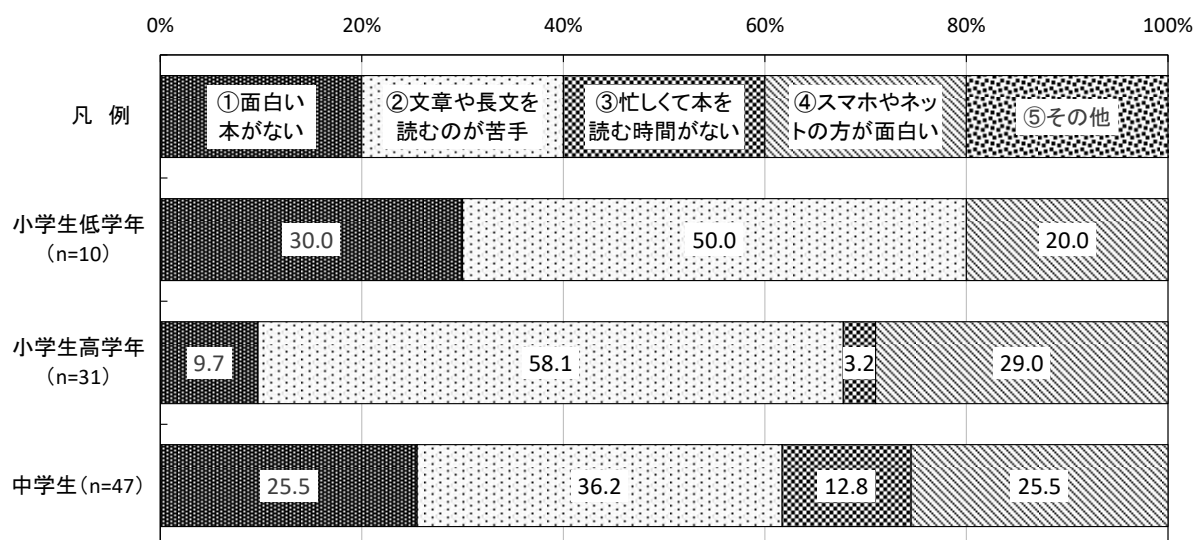
本を読むことが嫌い、あるいは苦手な理由は何ですか。(〇は1つ)

- ①面白い本がないから ②文章や長文を読むのが苦手だから
③習い事や塾、部活などで忙しく、本を読む時間がないから
④スマホやインターネットの方が面白いから ⑤その他

前問で本を読むことが「嫌い・苦手」と回答した方に、その理由を尋ねたところ、すべての学年層で「②文章や長文を読むのが苦手」の割合が最も高く、小学生(高学年)ではその割合が6割弱(58.1%)を占め、小学生(低学年)で5割(50.0%)、中学生で4割弱(36.2%)となっており、文章を読むことを苦手と感じている児童生徒が一定数いることがうかがえる。

次いで、小学生(低学年)では「①面白い本がない」が3割(30.0%)、小学生(高学年)では「④スマホやネットの方が面白い」が3割弱(29.0%)、中学生では「①面白い本がない」・「④スマホやネットの方が面白い」がともに3割弱(25.5%)となっている。

Q3 本を読むことが嫌い、あるいは苦手な理由



Q3 本を読むことが嫌い、あるいは苦手な理由

(単数回答)

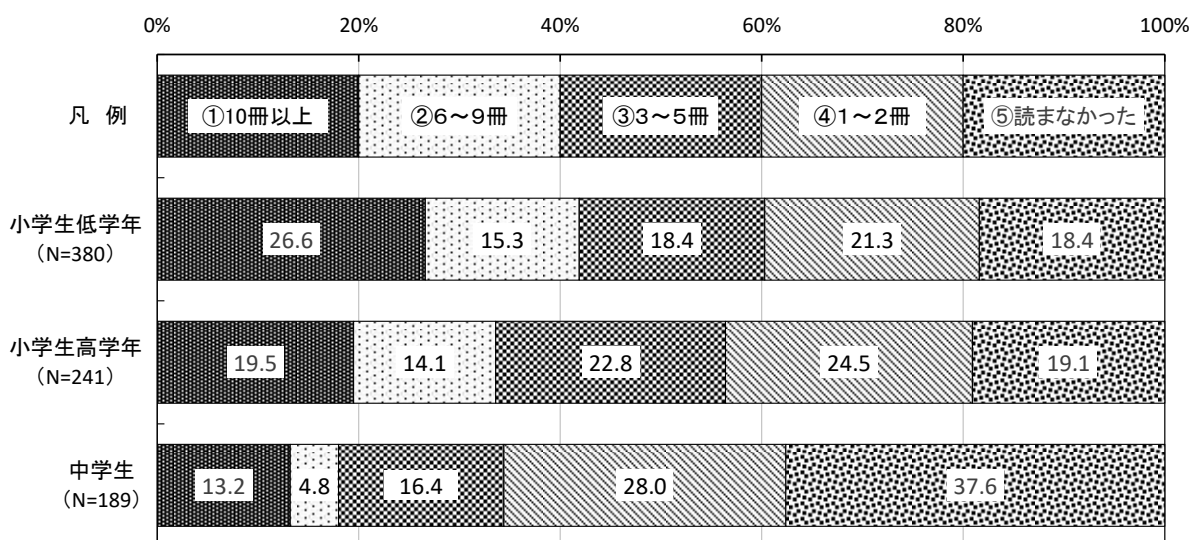
	小学生低学年		小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①面白い本がないから	3	30.0	3	9.7	12	25.5
②文章や長文を読むのが苦手だから	5	50.0	18	58.1	17	36.2
③習い事や塾、部活などで忙しく、本を読む時間がないから	0	0.0	1	3.2	6	12.8
④スマホやインターネットの方が面白いから	2	20.0	9	29.0	12	25.5
⑤その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	10	100.0	31	100.0	47	100.0

Q4 最近の1ヶ月間で、どのくらいマンガや雑誌を読みましたか。

①10冊以上	②6～9冊	③3～5冊	④1～2冊	⑤読まなかった
--------	-------	-------	-------	---------

最近1ヶ月間で読んだマンガや雑誌の冊数について、小学生(低学年)では、「①10冊以上」が3割弱(26.6%)と最も高く、次いで「④1～2冊」(21.3%)となっている。小学生(高学年)では、「④1～2冊」が2割強(24.5%)と最も高く、次いで「③3～5冊」(22.8%)となっている。中学生では「⑤読まなかった」が4割弱(37.6%)と最も高く、次いで「④1～2冊」(28.0%)となっている。

Q4 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌の冊数

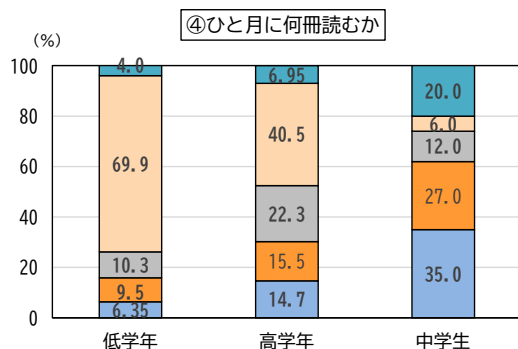


Q4 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌の冊数

(単数回答)

	小学生低学年		小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①10冊以上	101	26.6	47	19.5	25	13.2
②6～9冊	58	15.3	34	14.1	9	4.8
③3～5冊	70	18.4	55	22.8	31	16.4
④1～2冊	81	21.3	59	24.5	53	28.0
⑤読まなかった	70	18.4	46	19.1	71	37.6
合 計	380	100.0	241	100.0	189	100.0

<令和2年調査との比較>



令和2年の調査結果と比較すると、小学生では低学年・高学年ともに1ヶ月間で「10冊以上」読んだとする割合が今年度は半分以上低くなっている(R2 低学年: 69.85%、R2 高学年 40.5%)。

また、いずれの学年層においても「読まなかった」とする割合が今年度は増加している。

Q5 一日におけるマンガや雑誌の読書時間はどのくらいありますか。

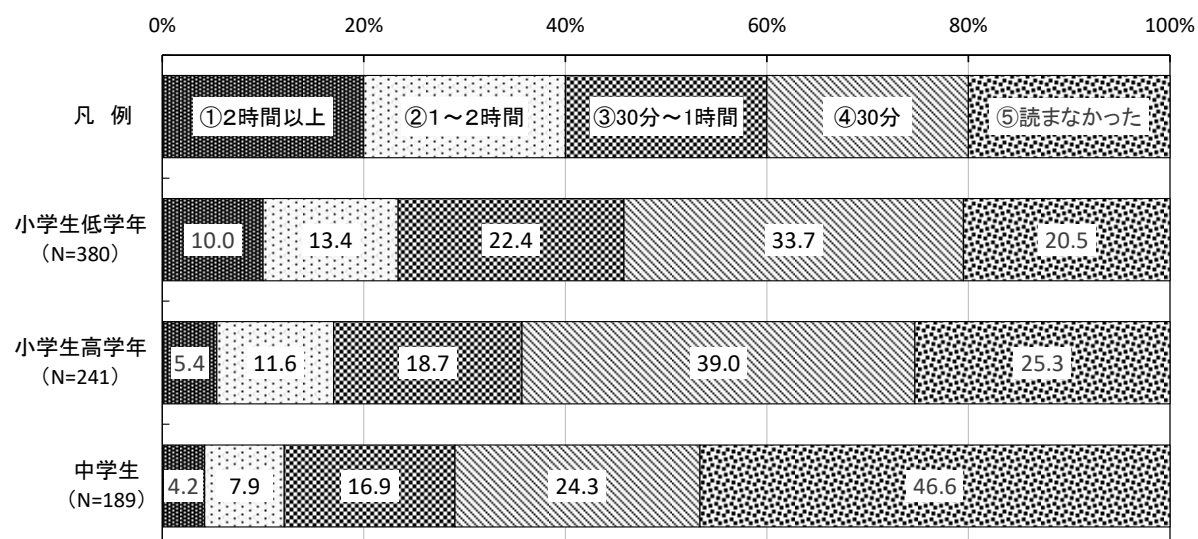
①2時間以上 ②1～2時間 ③30分～1時間 ④30分 ⑤読まなかった

マンガや雑誌を一日に読む時間について、小学生(低学年)では、「④30分」が3割強(33.7%)と最も高く、次いで「③30分～1時間」(22.4%)となっており、小学生(高学年)でも「④30分」が4割弱(39.0%)と最も高い。なお、小学生(低学年)では一日あたり「①2時間以上」という回答も1割(10.0%)みられる。

中学生では、「⑤読まなかった」以外の回答をみると、「④30分」が2割強(24.3%)で最も高い。

各学年層を比較すると、マンガや雑誌を読む時間は学年層が上がるにつれて、短くなる傾向にある。

Q5 一日における漫画や雑誌の読書時間



Q5 一日における漫画や雑誌の読書時間

(単数回答)

	小学生低学年		小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①2時間以上	38	10.0	13	5.4	8	4.2
②1～2時間	51	13.4	28	11.6	15	7.9
③30分～1時間	85	22.4	45	18.7	32	16.9
④30分	128	33.7	94	39.0	46	24.3
⑤読まなかった	78	20.5	61	25.3	88	46.6
合 計	380	100.0	241	100.0	189	100.0

Q6 最近の1ヶ月間で、どのくらいマンガや雑誌以外の本を読みましたか。(教科書・参考書を除く)

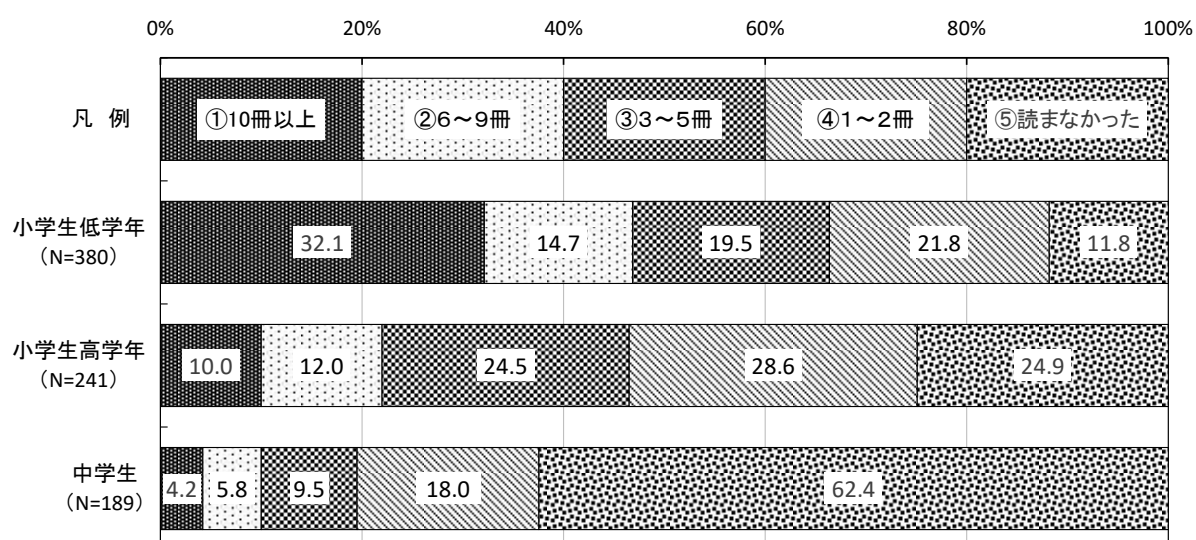
①10冊以上	②6～9冊	③3～5冊	④1～2冊	⑤読まなかった
--------	-------	-------	-------	---------

最近1ヶ月間で読んだ本(マンガや雑誌、教科書・参考書を除く)の冊数について、小学生(低学年)では、「①10冊以上」が3割強(32.1%)と最も高く、次いで「④1～2冊」(21.8%)となっている。小学生(高学年)では、「④1～2冊」が3割弱(28.6%)と最も高く、次いで「⑤読まなかった」(24.9%)、「③3～5冊」(24.5%)となっている。中学生では「⑤読まなかった」が6割強(62.4%)と最も高く、次いで「④1～2冊」(18.0%)となっている。

読書冊数は学年層が上がるにつれて減少傾向にあり、中学生の直近1ヶ月間で本を読まなかった割合は回答者の半数以上にも達し、小学生と比較して大きな差がみられる。

また、Q4の『マンガや雑誌の読書冊数』の設問も併せてみると、中学生では「この1か月間でマンガもマンガ以外の本も読まなかった」とする回答が64件となっており、「マンガ以外の本を読まなかった」とする回答者の半数程度(54.2%)、中学生の回答者全体では3割程度を占めている。

Q6 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌以外の本の冊数



Q6 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌以外の本の冊数

(単数回答)

	小学生低学年		小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①10冊以上	122	32.1	24	10.0	8	4.2
②6～9冊	56	14.7	29	12.0	11	5.8
③3～5冊	74	19.5	59	24.5	18	9.5
④1～2冊	83	21.8	69	28.6	34	18.0
⑤読まなかった	45	11.8	60	24.9	118	62.4
合 計	380	100.0	241	100.0	189	100.0

Q4 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌の冊数 × Q6 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌以外の本の冊数

			Q4 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌の冊数					
上段:件数 下段:割合			合計	①1～2冊	②3～5冊	③6～9冊	④10冊以上	⑤読まなかった
Q6 最近の1ヶ月間で読んだ漫画や雑誌以外の本の冊数	合計		810 100.0	193 23.8	156 19.3	101 12.5	173 21.4	187 23.1
	小学生低学年	小計	380 100.0	81 21.3	70 18.4	58 15.3	101 26.6	70 18.4
		①1～2冊	83 100.0	35 42.2	17 20.5	9 10.8	10 12.0	12 14.5
		②3～5冊	74 100.0	7 9.5	16 21.6	16 21.6	25 33.8	10 13.5
		③6～9冊	56 100.0	9 16.1	9 16.1	23 41.1	13 23.2	2 3.6
		④10冊以上	122 100.0	24 19.7	16 13.1	10 8.2	47 38.5	25 20.5
		⑤読まなかった	45 100.0	6 13.3	12 26.7	— —	6 13.3	21 46.7
	小学生高学年	小計	241 100.0	59 24.5	55 22.8	34 14.1	47 19.5	46 19.1
		①1～2冊	69 100.0	24 34.8	20 29.0	6 8.7	9 13.0	10 14.5
		②3～5冊	59 100.0	9 15.3	26 44.1	10 16.9	12 20.3	2 3.4
		③6～9冊	29 100.0	5 17.2	4 13.8	10 34.5	7 24.1	3 10.3
		④10冊以上	24 100.0	3 12.5	2 8.3	3 12.5	12 50.0	4 16.7
		⑤読まなかった	60 100.0	18 30.0	3 5.0	5 8.3	7 11.7	27 45.0
	中学生	小計	189 100.0	53 28.0	31 16.4	9 4.8	25 13.2	71 37.6
		①1～2冊	34 100.0	20 58.8	4 11.8	1 2.9	4 11.8	5 14.7
		②3～5冊	18 100.0	6 33.3	6 33.3	2 11.1	2 11.1	2 11.1
		③6～9冊	11 100.0	— —	4 36.4	3 27.3	4 36.4	— —
		④10冊以上	8 100.0	— —	2 25.0	1 12.5	5 62.5	— —
		⑤読まなかった	118 100.0	27 22.9	15 12.7	2 1.7	10 8.5	64 54.2

Q7 一日におけるマンガや雑誌以外の本の読書時間はどのくらいありますか。(教科書・参考書を読んだ時間を除く)

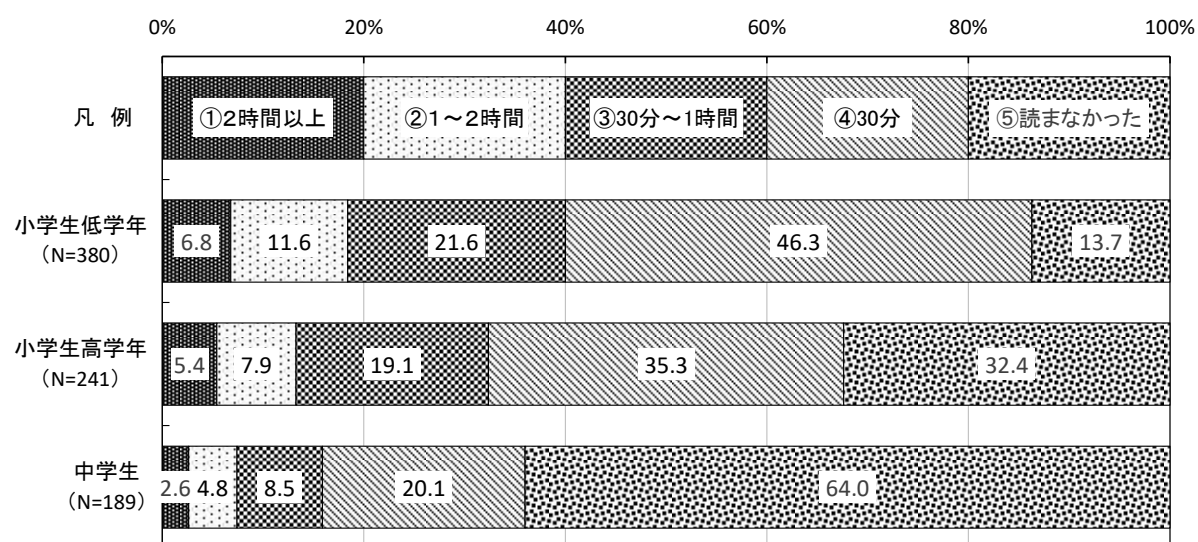
①2時間以上 ②1～2時間 ③30分～1時間 ④30分 ⑤読まなかった

本（マンガや雑誌、教科書・参考書を除く）を一日あたりに読む時間について、小学生(低学年)では、「④30分」が5割弱（46.3%）と最も高く、次いで「③30分～1時間」（21.6%）となっており、小学生(高学年)でも「④30分」が4割弱（35.3%）と最も高い。

中学生では、「⑤読まなかった」以外の回答をみると、「④30分」が約2割（20.1%）となっている。

マンガや雑誌と同様に、本を読む時間も学年層が上がるにつれて短くなる傾向にある。

Q7 一日における漫画や雑誌以外の本の読書時間



Q7 一日における漫画や雑誌以外の本の読書時間

(単数回答)

	小学生低学年		小学生高学年		中学生	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
①2時間以上	26	6.8	13	5.4	5	2.6
②1～2時間	44	11.6	19	7.9	9	4.8
③30分～1時間	82	21.6	46	19.1	16	8.5
④30分	176	46.3	85	35.3	38	20.1
⑤読まなかった	52	13.7	78	32.4	121	64.0
合 計	380	100.0	241	100.0	189	100.0

(小学生高学年・中学生のみ)

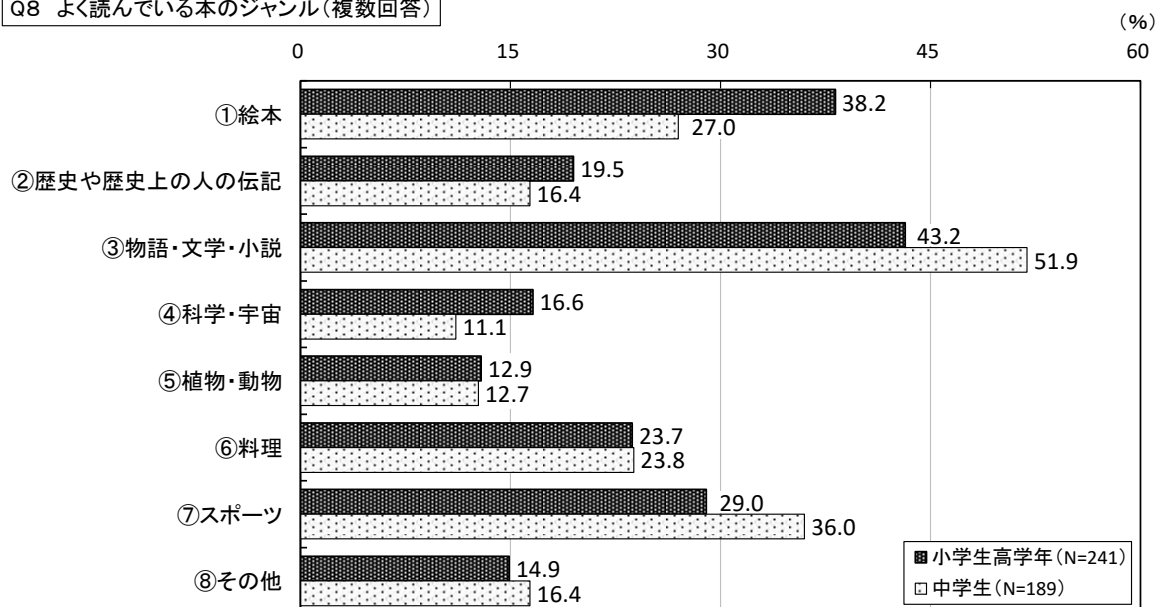
Q8 あなたはどんなジャンルの本をよく読んでいますか。(2つまで選んでください)

- | | | | |
|--------|--------------|-----------|---------|
| ①絵本 | ②歴史や歴史上の人の伝記 | ③物語・文学・小説 | ④科学・宇宙 |
| ⑤植物・動物 | ⑥料理 | ⑦スポーツ | ⑧その他() |

よく読む本のジャンルについて、割合が高い順にみると、小学生(高学年)では「③物語・文学・小説」(43.2%)、「①絵本」(38.2%)、「⑦スポーツ」(29.0%)となっており、中学生では「③物語・文学・小説」(51.9%)、「⑦スポーツ」(36.0%)、「①絵本」(27.0%)の順となっている。

小学生から中学生へ学校段階が上がり、「③物語・文学・小説」を読む傾向が僅かに高まっている一方、中学生においても3割弱(27.0%)の回答者は「①絵本」をよく読んでおり、その割合は「②伝記(16.4%)」をはじめ他の選択肢のジャンルを上回っていることがうかがえる。

Q8 よく読んでいる本のジャンル(複数回答)



Q8 よく読んでいる本のジャンル

(複数回答)

	小学生高学年(N=241)		中学生(N=189)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①絵本	92	38.2	51	27.0
②歴史や歴史上の人の伝記	47	19.5	31	16.4
③物語・文学・小説	104	43.2	98	51.9
④科学・宇宙	40	16.6	21	11.1
⑤植物・動物	31	12.9	24	12.7
⑥料理	57	23.7	45	23.8
⑦スポーツ	70	29.0	68	36.0
⑧その他	36	14.9	31	16.4

【その他】

・漫画(27件) ・ホラーや怖い話(8件) ・アニメ関係(6件) ・心理学など(2件) ・図鑑(2件)
 ・お父さんが読んでいるもの ・かんたんなもの ・ゲーム ・サスペンス ・ざんねないきもの
 ・ストーリー系 ・どっちが強いかな ・なぞなぞやクイズなど ・バイク ・英語 ・楽器 ・経済
 ・時間の使い方や整理整頓などの本 ・社会、総合的な本 ・手帳、お金、図書館 ・折り紙 ・戦う、恋愛
 ・戦闘 ・お笑い系 ・釣り ・哲学 ・日常系

(小学生高学年・中学生のみ)

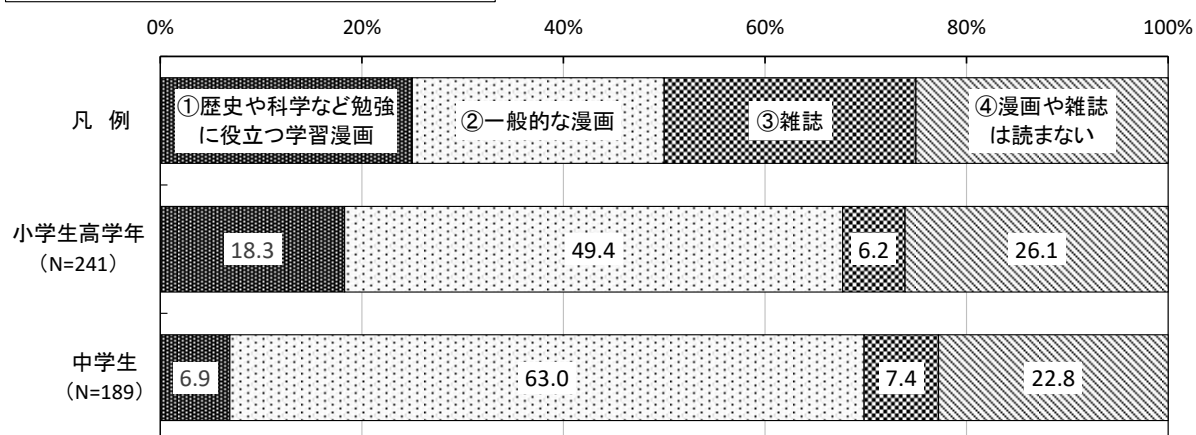
Q9 あなたはマンガや雑誌等の中で、どんな本をもっともよく読んでいますか。(〇は1つ)

- ①歴史や科学など勉強に役立つ学習マンガ（歴史・偉人・理科学習などを題材にしたマンガ）
 ②一般的なマンガ（少年マンガ・少女マンガ・SFマンガ など） ③雑誌 ④マンガや雑誌は読まない

よく読むマンガや雑誌のジャンルについて、小学生(高学年)・中学生ともに「②一般的なマンガ（少年マンガ・少女マンガ・SFマンガなど）」の割合が最も高く、小学生(高学年)では約5割（49.4%）、中学生では6割強（63.0%）となっている。

また、小学生(高学年)では「①歴史や科学など勉強に役立つ学習マンガ」の回答も2割弱（18.3%）みられるが、中学生では「①学習マンガ」を読む割合は1割弱（6.9%）にとどまっている。

Q9 マンガや雑誌等の中でもっともよく読んでいる本



Q9 マンガや雑誌等の中でもっともよく読んでいる本

(単数回答)

	小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
① 歴史や科学など勉強に役立つ学習マンガ	44	18.3	13	6.9
② 一般的なマンガ(少年マンガ・少女マンガ・SFマンガ など)	119	49.4	119	63.0
③ 雑誌	15	6.2	14	7.4
④ マンガや雑誌は読まない	63	26.1	43	22.8
合 計	241	100.0	189	100.0

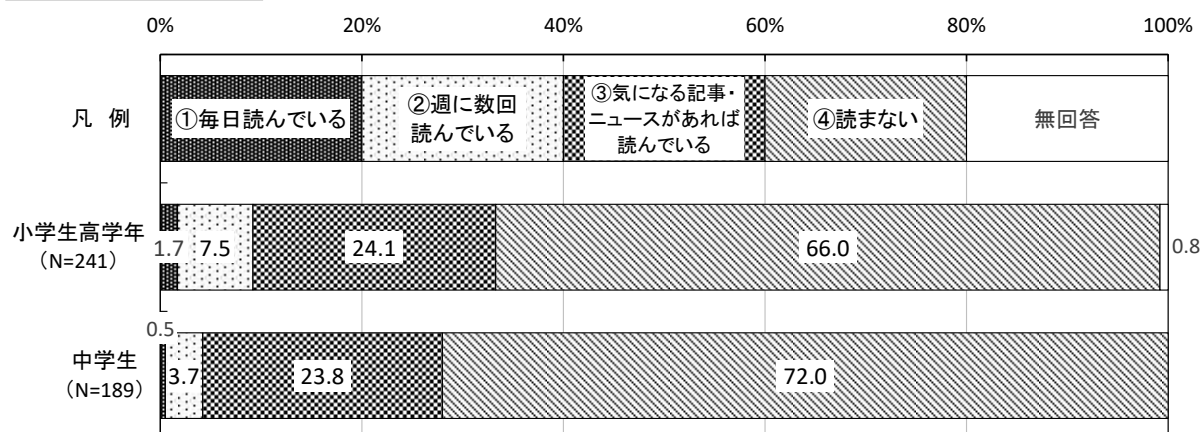
(小学生高学年・中学生のみ)

Q10 あなたは新聞を読みますか。(テレビ欄や四コママンガは除く／○は1つ)

①毎日読んでいる ②週に数回読んでいる ③気になる記事・ニュースがあれば読んでいる ④読まない

新聞を読む頻度について、小学生(高学年)・中学生ともに「④読まない」割合が最も高く、小学生(高学年)では7割弱(66.0%)、中学生では7割強(72.0%)となっており、次いで「③気になる記事・ニュースがあれば読んでいる」がともに2割強みられる。『週に数回以上読んでいる』割合は、小学生(高学年)・中学生ともに1割未満にとどまる。

Q10 新聞を読んでいるか



Q10 新聞を読んでいるか

(単数回答)

	小学生高学年		中学生	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①毎日読んでいる	4	1.7	1	0.5
②週に数回読んでいる	18	7.5	7	3.7
③気になる記事・ニュースがあれば読んでいる	58	24.1	45	23.8
④読まない	159	66.0	136	72.0
無回答	2	0.8	0	0.0
合 計	241	100.0	189	100.0

(小学生高学年・中学生のみ)

Q11 もっと読書に親しむ人を増やすためには、どんな取り組みが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

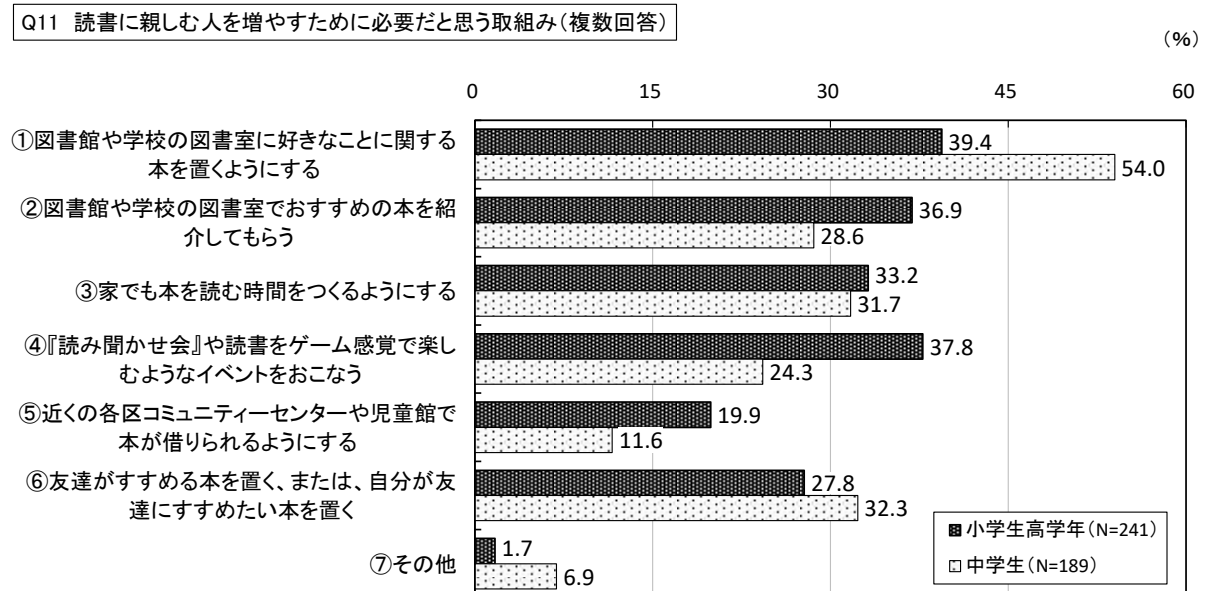
- ①図書館や学校の図書室に好きなことに関する本を置くようにする
②図書館や学校の図書室でおすすめの本を紹介してもらう
③家でも本を読む時間をつくるようにする
④図書館での『読み聞かせ会』や読書をゲーム感覚で楽しむような読書に関するイベントをおこなう
⑤近くの各区コミュニティセンターや児童館で本が借りられるようにする
⑥友達がすすめる本を置く、または、自分が友達にすすめたい本を置く ⑦その他()

読書に親しむ人を増やすために必要な取り組みについて、小学生(高学年)・中学生ともに「①図書館や学校の図書室に好きなことに関する本を置くようにする」が最も高く、小学生(高学年)では約4割(39.4%)、中学生では5割強(54.0%)となっている。

次いで、小学生(高学年)では「④図書館での『読み聞かせ会』や読書をゲーム感覚で楽しむような読書に関するイベントをおこなう」(37.8%)、「②図書館や学校の図書室でおすすめの本を紹介してもらう」(36.9%)、中学生では「⑥友達がすすめる本を置く、または、自分が友達にすすめたい本を置く」(32.3%)、「③家でも本を読む時間をつくるようにする」(31.7%)となっている。

各選択肢の回答割合の差はそれほど小さくなく、読書に親しむ人を増やすためには様々な取り組みが必要と考えられていることがうかがえる。

Q11 読書に親しむ人を増やすために必要だと思う取組み(複数回答)



Q11 読書に親しむ人を増やすために必要だと思う取組み

(複数回答)

	小学生高学年(N=241)		中学生(N=189)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
①図書館や学校の図書室に好きなことに関する本を置くようにする	95	39.4	102	54.0
②図書館や学校の図書室でおすすめの本を紹介してもらう	89	36.9	54	28.6
③家でも本を読む時間をつくるようにする	80	33.2	60	31.7
④『読み聞かせ会』や読書をゲーム感覚で楽しむようなイベントをおこなう	91	37.8	46	24.3
⑤近くの各区コミュニティーセンターや児童館で本が借りられるようにする	48	19.9	22	11.6
⑥友達がすすめる本を置く、または、自分が友達にすすめたい本を置く	67	27.8	61	32.3
⑦その他	4	1.7	13	6.9

【その他】

- ・スマホをなくす ・学校でも読書の時間を増やし、本に触れ合う時間を増やすこと
- ・ビブリオバトルを開催する ・授業で図書館に行く時間を増やす ・国語の時間とかに行く
- ・おすすめされた本を読む時間を作る ・コミュニティーセンターで読み聞かせする
- ・どんな本を置いてほしいかリクエストする ・面白い本を作る
- ・みんながよこぶ本、面白いという本を置いたら良いと思う ・新旧関係なくもっと増やす ・漫画を置く
- ・SNSでみる ・学校の本を増やす ・桜井のりお先生作の「僕の心のヤバイやつ」を置く
- ・図書館に最近の流行っている漫画などを置く ・学校での図書館を利用する時間を増やす

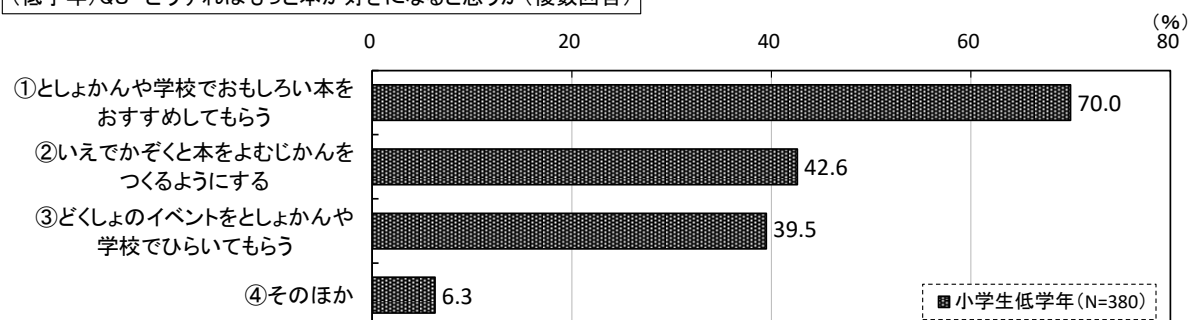
(小学生低学年のみ)

☆8 あなたは どうすれば もっと本が すきになると おもいますか。

- ①としょかんや 学校で おもしろい本をおすすめしてもらう
 ②いえで かぞくと本をよむ じかんを つくるようにする
 ③どくしょのイベントを としょかんや学校で ひらいてもらう ④そのほか()

小学生(低学年)にどうすればもっと本が好きになるか尋ねた設問では、「①としょかんや学校でおもしろい本をおすすめしてもらう」が7割(70.0%)と最も高く、おすすめ本の紹介については、前問の小学生(高学年)・中学生の回答や保護者アンケートの回答においても必要な取り組みとして上位に挙げられている。次いで「②いえでかぞくと本をよむじかんをつくるようにする」が4割強(42.6%)、「③どくしょのイベントをとしょかんや学校でひらいてもらう」が約4割(39.5%)となっている。

(低学年)Q8 どうすればもっと本が好きになると思うか(複数回答)



(低学年)Q8 どうすればもっと本が好きになると思うか (複数回答)

	小学生低学年(N=380)	
	件数	割合 (%)
①としょかんや学校でおもしろい本をおすすめしてもらう	266	70.0
②いえでかぞくと本をよむじかんをつくるようにする	162	42.6
③どくしょのイベントをとしょかんや学校でひらいてもらう	150	39.5
④そのほか	24	6.3

【その他】

- ・親や、友達に おすすめを 教えてもらう(4件) ・図書館にたくさん本を増やしたらいいと思います
- ・いろいろな貸出券などを作ったり、学校でリクエストボックスを作る
- ・本を借りられる数を増やしてもらいたい、同じ本を作って同じ時に借りられるようにしたい
- ・新しい本がいっぱいあれば読める数も増える ・面白い本をさがす ・気になった本をすべて読む
- ・自分の好みの本を読む ・いっぱいいっぱい本を読む ・男子と女子でオススメの本コーナーを作る
- ・読み聞かせ、パワーアップタイムを読書タイムにしたりすると本を読む習慣がつくと思う
- ・本をいっぱい読む時間をつくる ・休みの日とかに、友達や家族と自分がおすすめの本を読む時間を作る
- ・児童会に何年生がなんのシリーズを1番借りているかや、何の本が1番借りているかを知りたい
- ・好きな漫画や、絵本や、本 ・好きだからなんでもいい ・好きな漫画や、絵本や、本や、こんな事をやりますよ
- ・細かいところも読み、楽しく読む、そして者の音とかも読む ・まじで読みたくない、本なんか嫌い
- ・なにも大丈夫です(2件)

Ⅱ. 嘉手納町子どもの読書活動推進計画検討委員会設置要綱

（設置）

第1条 子どもの読書活動の推進に関する法律（平成 13 年法律第 154 号）第9条第2項の規定に基づき第2次嘉手納町子どもの読書活動推進計画（以下「計画」という。）の策定に関し、当該計画案の作成をするため、嘉手納町子どもの読書活動推進計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（任務）

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査・研究・審議をする。

- （1）子どもの読書活動に関する調査・研究及び資料の収集に関すること。
- （2）計画（案）を作成し教育委員会へ提出すること。

（組織）

第3条 委員は、次の者をもって構成し、教育長が任命する。

- （1）社会教育課長
- （2）教育指導課長
- （3）中央公民館長
- （4）子ども家庭課長
- （5）町立図書館長
- （6）教育指導課主幹
- （7）町立屋良小学校長
- （8）町立嘉手納小学校長
- （9）町立嘉手納中学校長
- （10）その他教育長が必要と認める者

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員長に社会教育課長、副委員長に町立図書館長をもって充てる。

2 委員長は委員会を代表し、会務を統括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

（任期）

第5条 委員の任期は、選任の日から計画策定の日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長を務める。

2 委員会は、計画案の作成に関し、必要に応じ広く意見を聞くことができる。

(設置期間)

第7条 委員会の設置期間は設置の日から計画策定の日までとする。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、社会教育課に置く。

(補足)

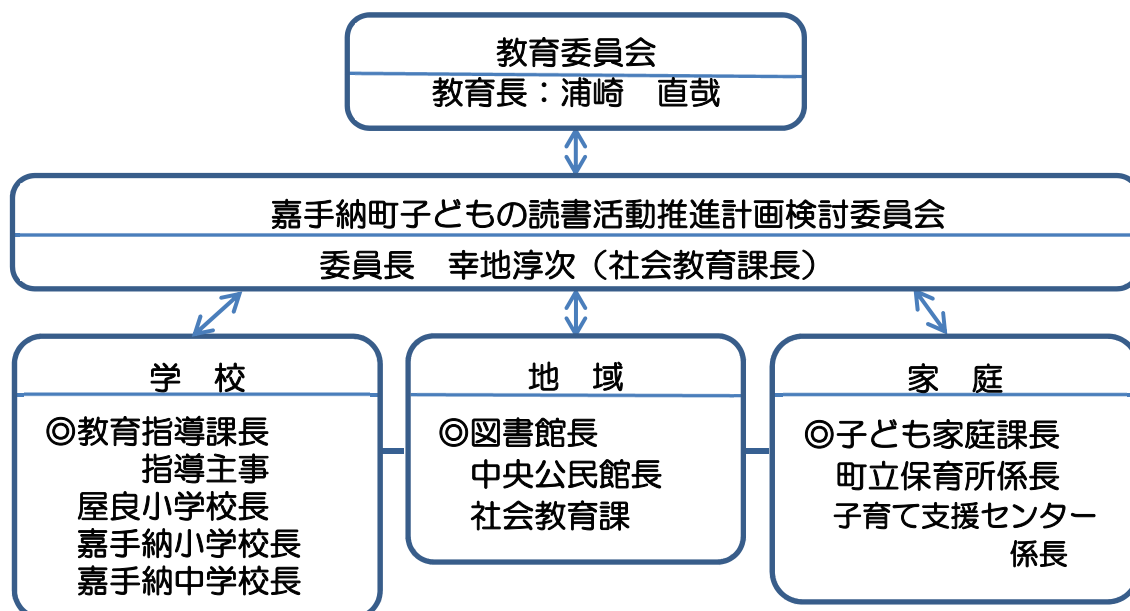
第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、令和6年10月1日から施行する。

Ⅲ. 嘉手納町子どもの読書活動推進計画 策定実施体制

役職	氏 名	所属（役職）	役 割
委員長	幸地 淳次	社会教育課長	総括、会議招集
副委員長	島袋 隆	嘉手納町立図書館長	委員長補佐
委 員	町田 優	中央公民館長	各担当への協力依頼
委 員	金城 博吉	教育指導課長	各担当への協力依頼
委 員	仲宗根 さゆり	子ども家庭課長	家庭・地域における取り組みについて 児童館における取り組みについて
委 員	小濱 勉	教育指導課主幹	各担当への協力依頼 司書研修の充実、ボランティアの育成について
委 員	島袋 伸	屋良小学校長	小学生、その保護者、幼稚園保護者への実態調査・考察、具体的な取り組み、推進にむけて
委 員	新城 剛	嘉手納小学校長	小学生、その保護者、幼稚園保護者への実態調査・考察、具体的な取り組み、推進にむけて
委 員	與志平 洋子	嘉手納中学校長	中学生、その保護者の実態調査・考察、具体的な取り組み、推進にむけて
事務局	仲本 早紀子 奥間 篤樹	社会教育係長 教育総務係長	庶務全般 教育委員会に属する計画担当



IV. 計画策定までの経緯

実施日	実施内容
令和6年 12月18日	<u>第1回検討委員会の開催</u> ・計画策定の概要と読書を取り巻く社会動向について ・現行計画の点検・評価の実施（予告） ・計画策定にかかるアンケート調査の実施（予告）
12月下旬～ 1月中旬	保護者アンケートの実施・回収
令和7年 1月中旬～下旬	児童生徒アンケートの実施・回収
2月25日	<u>第2回検討委員会の開催</u> ・子どもの読書活動に関わるアンケート調査報告 ・計画骨子案
2月27日	<u>教育委員会議での審議</u>
3月18日	<u>第3回検討委員会の開催</u> ・子どもの読書活動に関わる具体的な取り組み事項について
3月28日	<u>教育委員会議での審議</u>

V. 子どもの読書活動の推進に関する法律

平成13年12月12日 施行

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども(おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。)の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(以下「子ども読書活動推進基本計画」という。)を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画(都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画)を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画(以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。)を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

第2次嘉手納町子どもの読書活動推進計画

令和7年（2025）3月発行 嘉手納町教育委員会
〒904-0293 沖縄県中頭郡嘉手納町字嘉手納 588
TEL：098-956-1111 FAX：098-956-9240